



MapXtreme 2005 v6.7 リリースノート

Pitney Bowes MapInfo :
電話 : 518 285 6000
FAX : 518 285 6070
販売 : 800 327 8627
政府販売 : 800 619 2333
テクニカル サポート : 518 285 7283
www.mapinfo.com

© 2007 Pitney Bowes MapInfo Corporation. All rights reserved. MapInfo MapInfo Pitney Bowes MapInfo Corporation

2007年8月

このリリースノートでは、MapXtreme 2005 v6.7 に追加された拡張機能とアップデート機能について説明します。また、『開発者ガイド』の発行時点では入手できなかったバグフィックス、既知の問題、およびその他の情報についても解説します。

このドキュメントは、『MapXtreme 2005 開発者ガイド』の補足ドキュメントです。今回のリリースに固有の情報はこのドキュメントを参照し、製品全体に関する情報および使用方法については『開発者ガイド』をご覧ください。『開発者ガイド』は以下の3種類のフォーマットで提供されており、複数の方法でご利用いただけます。

- MapXtreme 2005 製品に同梱されている『開発者ガイド』の冊子。
- Visual Studio .NET 2003 および Visual Studio 2005 (ヘルプ コンテンツ ペイン) に統合された HTML バージョンを利用する。
- [スタート]、[すべてのプログラム]、[MapInfo] の順にクリックし、[MapXtreme 2005 v6.7] を選択して [ラーニング リソース] ページから PDF 版をダウンロードする。
- MapInfo の Web サイト (<http://extranet.mapinfo.com/support/documentation/manuals.cfm#mapxtreme0405>) から PDF バージョンをダウンロードする。

トピックの一覧

◆ 新機能	2
◆ 強化された機能	23
◆ バグフィックス	25
◆ 既知の問題	32
◆ ドキュメントの補足	44

新機能

MapXtreme 2005 バージョン 6.7 には、以下の新しい機能が追加されています。

- ◆ AJAX サンプル Web アプリケーション
- ◆ マップ描画機能の拡張
- ◆ 座標系の機能拡張
- ◆ エクスポート形式
- ◆ 経緯度線レイヤ
- ◆ Windows Vista の IIS 7.0
- ◆ LegendControl
- ◆ パフォーマンス拡張
- ◆ サポート対象のオペレーティングシステム、データベース、およびブラウザ
- ◆ 主題図のパフォーマンスと使いやすさの拡張
- ◆ ワークスペース マネージャの使いやすさの向上

AJAX サンプル Web アプリケーション

ASP.NET AJAX のサンプルアプリケーションが、MapXtreme 2005 の今回のリリースに新しく追加されました。この AJAXDemo サンプルアプリケーションでは、Microsoft の ASP.NET AJAX コントロールを MapXtreme 2005 の Web マッピングアプリケーションで実際に使用する方法を紹介しています。サンプルは、`..\MapInfo\MapXtreme\6.x\Samples\VisualStudio2005\Web\Features` に格納されています。

ASP.NET AJAX テクノロジー、および MapXtreme の Web アプリケーションについては、『開発者ガイドの』第 5 章、「Web アプリケーション、コントロール、およびツール」を参照してください。

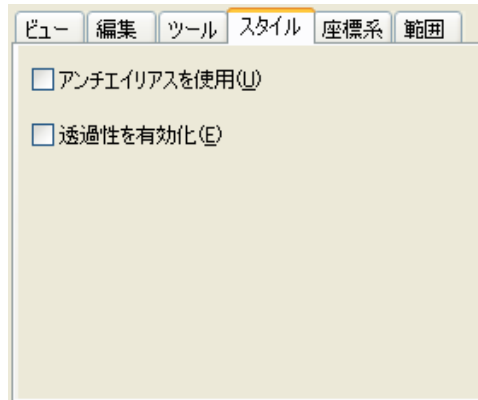
注意: AJAXDemo サンプルを実行するには、Microsoft ASP.NET 2.0 AJAX Extensions 1.0 がシステムにインストールされている必要があります。これらは MapXtreme 2005 の製品 CD に収録されています。

マップ描画機能の拡張

GDI+ による透過性とアンチエイリアシングを用いたレンダリングの拡張

Microsoft Windows GDI+ は Windows XP または Windows Server 2003 オペレーティングシステムに含まれる機能で、2次元のベクトルグラフィックスやイメージ、およびタイポグラフィを可能にします。GDI+ によって新しい機能が追加され、また既存の機能が最適化されるため、Windows の Graphics Device Interface (GDI)、すなわち旧バージョンの Windows に含まれるグラフィック デバイス インターフェイスの機能が強化されます。MapXtreme 2005 の GDI+ レンダリング機能を利用することで、半透明のラベル、主題図、レイヤを作成できます。また、アンチエイリアシングも適用できるため、高解像度レンダリングを低い解像度で表示するときに、直線と曲線の縁やリージョンの境界線がぎざぎざになるのを防ぎ、なめらかにすることができます。

GDI+ レンダリングは MapInfo.Mapping.DrawingAttributes と MapInfo.Mapping.LegendDrawing の属性クラスに含まれる 2 つの新しいプロパティ、EnableTranslucency および SmoothingMode を使って、API で有効にすることができます。あるいは、ワークスペース マネージャのレイヤ コントロールに新しく追加された [スタイル] タブを使って有効にすることも可能です。



注意: アンチエイリアシングは透過性が有効になっているときにだけ使用できます。これらはいずれもワークスペース マネージャのユーザ インターフェイスを使って設定するか、プログラムから設定します。[アンチエイリアス処理を使用する] をオンにした場合、[透過性を有効にする] が自動的に選択されます。[透過性を有効にする] をオフにした場合は、[アンチエイリアス処理を使用する] も自動的にオフになります。

次のマップは、一般道路と高速道路におけるラベルの透過性とアンチエイリアスの効果を示しています。アンチエイリアスが有効になっているため、リージョンの境界線や折れ線が滑らかに表示されていることがわかります。

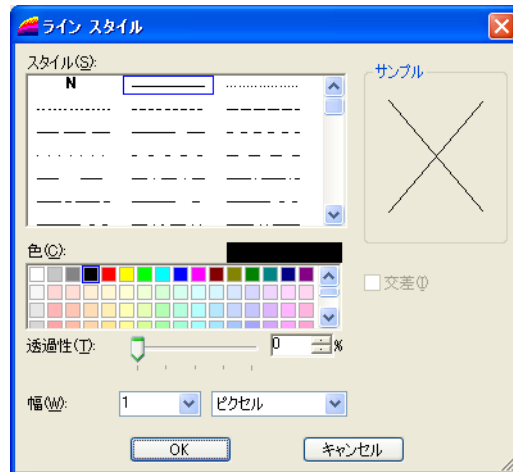
GDI+ で拡張される前のレンダリング



GDI+ で拡張された後のレンダリング



透過性のトラックバー (TrackBarValuePicker コントロール) も追加され、すべてのスタイル ダイアログ (ライン スタイル、エリア スタイル、シンボルスタイル、テキスト スタイル など) で使用可能になりました。このコントロールを使うと、トラックバーをスライドさせるか、ボックスに数値を選択して、0 から 100 までのパーセンテージ値を設定できます。ただし、このトラックバーは透過性が有効になっていなければ使用できません。



色の透過性をプログラムから変更するには、`System.Drawing.Color.FromArgb()` メソッドを使用します。このメソッドでは、適用する色のアルファ値を指定できます (GDI+ では、アルファ チャンネルは透過性情報のために予約済みのピクセル カラー データに含まれます)。詳細については、<http://msdn2.microsoft.com/en-us/library/system.drawing.color.fromargb.aspx> にある .NET のドキュメントを参照してください。

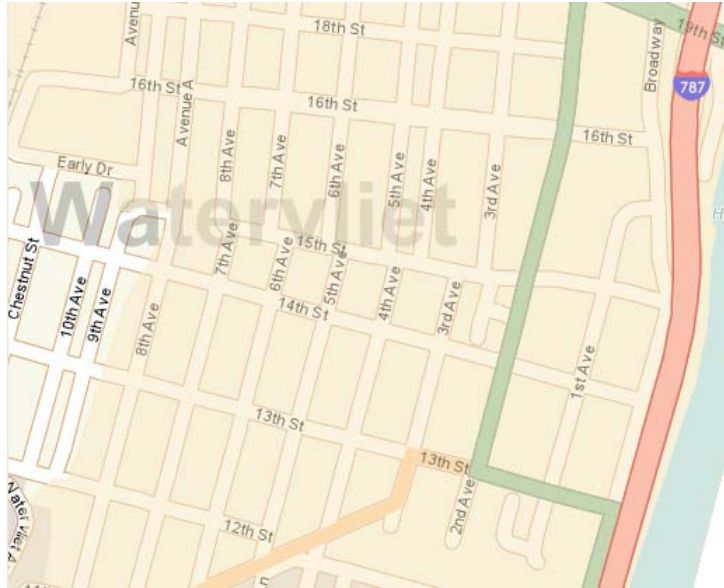
透過性はすべての色でサポートされており、透過性が有効か無効かにかかわらず、ツールは正しく機能します。[透過性を有効にする] のオプションを変更しても、透明なラス タ イメージの表示やエクスポートには何も影響がありませんが、印刷するには有効にしておく必要があります (24 ページの「透過性の印刷」を参照してください)。

注意: 透過性やアンチエイリアス処理を有効にして高品位のマップをレンダリングすると、レンダリング速度が低下する場合があります。この影響は、3 つ以上の透過レイヤを含んだマップで特に顕著に現れます。

ワークスペース マネージャを使用した透過性の追加

マップに半透明効果を追加する方法

次のマップには、半透明な都市境界領域が含まれています。“Watervliet”というラベルの付いた領域の一部がオーバーラップしており、ラベルの領域の中でオーバーラップされていない部分 (“Watervliet”の最初の2文字の部分)とされている部分の表示が異なっていることがわかります。このラベル自身も、マップの他の部分に対して半透明に置かれています。



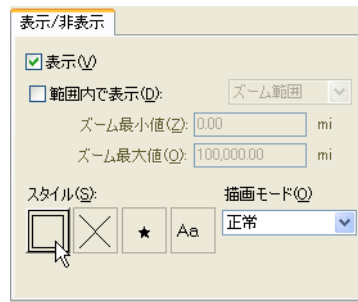
レイヤに半透明効果を追加するには、レイヤの元のスタイルを変更するために、スタイルのオーバーライドを使用します。

注意: プログラム上でオーバーライド スタイル修飾子を重ね合わせる (OverrideType = AddNew) と、最初にフィーチャのスタイルが描画されます。重ね合わせる方のスタイルが半透明なので、フィーチャもその下から透けて見えます。

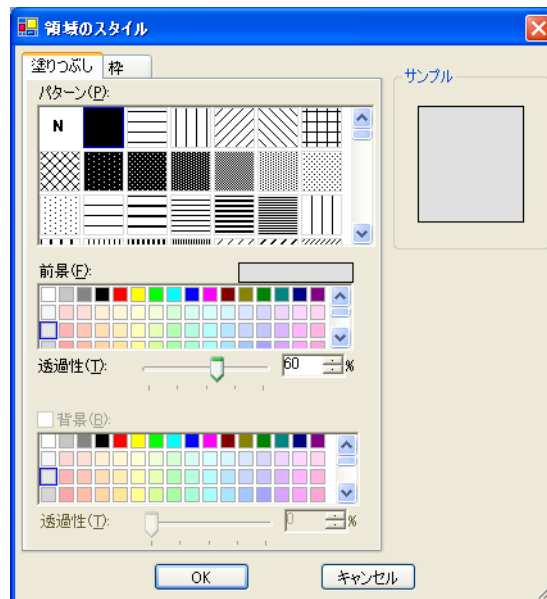
1. ワークスペース マネージャのレイヤ コントロールで、レイヤ コントロールの "root" ノード (マップに相当) を選択します。[スタイル] タブで、[透過性を有効化] を選択します。
2. 透過性を追加するレイヤを選択し、それをリストの一番上に移動してから、オーバーライドするスタイルを追加します。



- オーバーライドするスタイルの [表示] タブで、そのレイヤのオブジェクトに指定されたスタイルのボタンをクリックします。この例の場合は、[エリア スタイル] ボタンをクリックします。



[エリア スタイル] ダイアログ ボックスが表示されます。



- 透過性トラックバーを使用して、適用する透過性のレベルを選択します。色ごとに、異なる透過性レベルを選択できます。

以前の例でも、ウォーターマークによく似た半透明のラベルが表示されていました。半透明の都市境界領域で表示をオフにすると、ラベルは次のように表示されます。



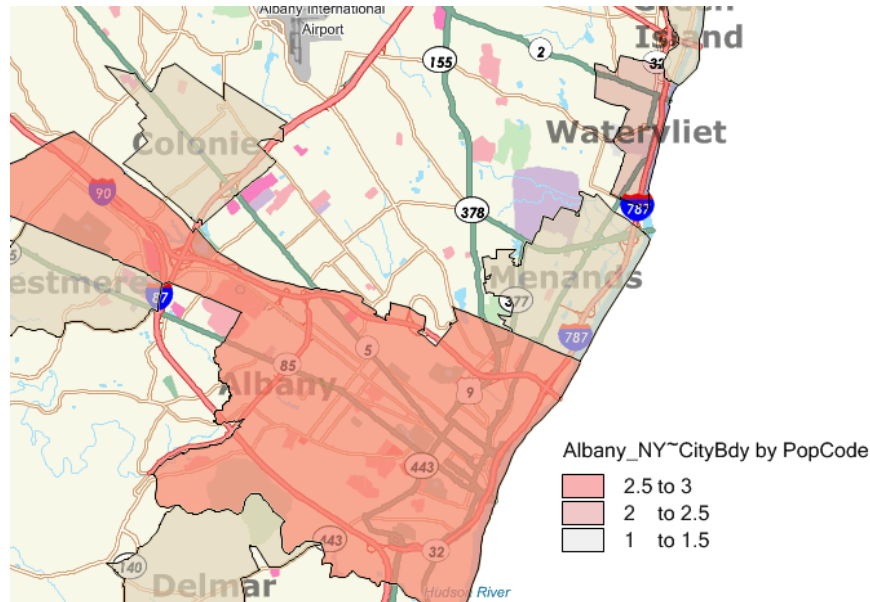
この例のように、マップの上に半透明のラベルを追加するには、以下のように操作します。

- ワークスペース マネージャのレイヤ コントロールで、レイヤ コントロールの "root" ノード (マップに相当) を選択します。[スタイル] タブで、[透過性を有効化] を選択します。
- レイヤ コントロールのラベル ソースを選択して、[スタイル] タブに移動します。
- [テキスト スタイル] ボタンをクリックして、[テキスト スタイル] ダイアログを表示します。

- 透過性トラックバーを使用して、ラベルの色に適用する透過性のレベルを選択します。上の例では、フォアグラウンドのテキストの透過性が 80% に設定されています。

主題図に半透明効果を適用する方法

主題図マップには、半透明効果を適用できます。次の例は、都市境界図レイヤに適用されたレンジ主題図を表しています。このレイヤは、他のレイヤに重ねて配置されています。



透過性を有効にした場合、主題図の開始範囲と終了範囲 (Bin) に対して半透明値を選択することで、色を自動的に変化させることができます。これにより、主題図の開始 Bin と終了 Bin の間にも、自動的に半透明値が適用されます。たとえば、前出のマップの主題図では、開始 Bin には透過値 75% (灰色) が、終了 Bin には透過値 50% (赤色) が適用されています。この主題図には 3 つの Bin が存在するため、中間の Bin には自動的に透過値 63% (50 と 75 の間で均等に配分) が適用されます。

API を使用した透過性の追加

レイヤに透過性を追加する方法

次の C# のコード例は、プログラムで API を使用して、レイヤに透過性を追加する方法を示しています。

```
// ワークスペースからマップを読み込む :
```

```
Map map = Session.Current.MapFactory.CreateEmptyMap(new Size(500, 500));
MapWorkspaceLoader mapLoader = new MapWorkspaceLoader("Workspace.mws");
mapLoader.AutoPosition = false;
map.Load(mapLoader);
```

```
// 透過性とアンチエイリアシングを有効にする :
```

```
map.DrawingAttributes.EnableTranslucency = true;
map.DrawingAttributes.SmoothingMode = MapInfo.Mapping.SmoothingMode.AntiAlias;
```

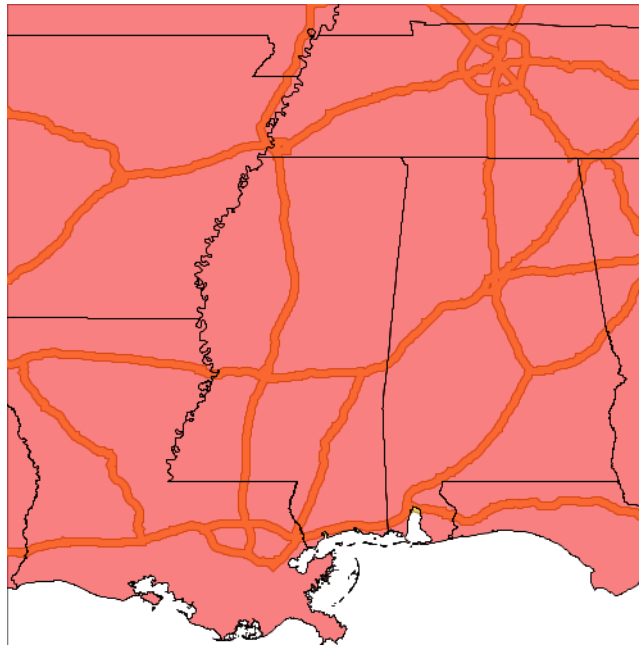
```
// エリアスタイルを変更するために、スタイル修飾子をオーバーライドするフィーチャを作成し、// レイヤのフォアグラウンドの色を透過性 50% にする :
```

```
CompositeStyle style = new CompositeStyle();
((SimpleInterior)style.AreaStyle.Interior).ForeColor = Color.FromArgb((int)(255 * 0.5), Color.Red);
style.AreaStyle.Interior.Attributes = StyleAttributes.InteriorAttributes.ForeColor;
```

```
FeatureOverrideStyleModifier modifier = new FeatureOverrideStyleModifier();
modifier.Style = style;

FeatureLayer layer = map.Layers["LayerAlias"] as FeatureLayer;
layer.Modifiers.Append(modifier);

// 次に、マップイメージをビットマップにエクスポートする
using (MapExport mapExport = new MapExport(map))
{
    mapExport.Border = ExportBorder.Off;
    mapExport.Format = ExportFormat.WindowsBmp;
    mapExport.Export("ModifierExport.bmp");
}
```



注意: プログラム上でオーバーライドスタイル修飾子を重ね合わせる (`OverrideType = AddNew`) と、最初にフィーチャのスタイルが描画されます。重ね合わせる方のスタイルが半透明なので、フィーチャもその下から透けて見えます。

半透明のレンジ主題図の作成方法

次の C# のコード例は、プログラムで API を使用して、半透明なレンジ主題図を作成する方法を示しています。

// ワークスペースからマップを読み込む :

```
Map map = Session.Current.MapFactory.CreateEmptyMap(new Size(500, 500));
MapWorkSpaceLoader mapLoader = new MapWorkSpaceLoader("Workspace.mws");
mapLoader.AutoPosition = false;
map.Load(mapLoader);
```

// 透過性とアンチエイリアシングを有効にする :

```
map.DrawingAttributes.EnableTranslucency = true;
map.DrawingAttributes.SmoothingMode = MapInfo.Mapping.SmoothingMode.AntiAlias;
```

// フィーチャレイヤから 7 つの Bin を持つレンジ主題図を作成する :

```
FeatureLayer layer = map.Layers["LayerAlias"] as FeatureLayer;
RangedTheme rangedTheme = new RangedTheme(layer, "ColumnName", "RangedTheme", 7,
DistributionMethod.StandardDeviation);
```

```
// この主題図は色を変化させ、適用するだけ：
rangedTheme.SpreadBy = SpreadByPart.Color;
rangedTheme.ApplyStylePart = StylePart.Color;

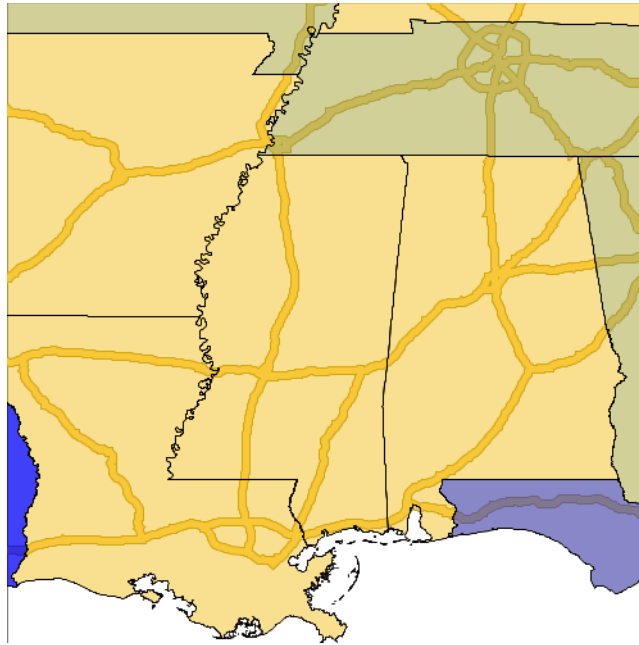
// 色を変化させているので、各 Bin の色の透過性も変化させることが
// できる。25% から 75% の間で透過性を変化させる。.NET の色の構造では、透過性はアルファ
// で表現される。アルファの場合は色の不透明性を 0 から 255 の範囲で定義する。つまり、透明性とは逆の単位で設
// 定する。ここでは不透明性を 25% (透明性 75%) で開始し、
// 75% で終了する
// 透明性 25%) :
int startAlpha = (int) (255 * 0.25);
int endAlpha = (int) (255 * 0.75);

// 主題図の最初と最後の Bin のエリア スタイルを変更し、上で指定した不透明性の
// 値を使用して、色を赤から青に変化させる。この主題図は色で変化するように設定されているため、
// 色の範囲は開始 Bin の色と終了 Bin の色を使って変化していく。不透明性も
// 自動的に開始 Bin と終了 Bin の不透明性の値を使って変化する。
rangedTheme.Bins[0].Style.AreaStyle = new AreaStyle(new SimpleLineStyle(), new
SimpleInterior(2, Color.FromArgb(startAlpha, Color.Red)));
rangedTheme.Bins[rangedTheme.Bins.Count - 1].Style.AreaStyle = new AreaStyle(new
SimpleLineStyle(), new SimpleInterior(2, Color.FromArgb(endAlpha, Color.Blue)));

// また、屈折色も使用し、その色に 50% の不透明性を使用する：
rangedTheme.Inflected = true;
rangedTheme.InflectionIndex = 3;
int inflectionAlpha = (int) (255 * 0.50);
rangedTheme.InflectionColor = Color.FromArgb(inflectionAlpha, Color.Yellow);

// 続いて Bin を再計算し、マップのレイヤに追加する：
rangedTheme.Recompute();
layer.Modifiers.Append(rangedTheme);

// 次に、マップ イメージをビットマップにエクスポートする
using (MapExport mapExport = new MapExport(map))
{
    mapExport.Border = ExportBorder.Off;
    mapExport.Format = ExportFormat.WindowsBmp;
    mapExport.Export("RangedThemeExport.bmp");
}
```



半透明なラベルを作成する方法

次の C# のコード例は、プログラムで API を使用して、半透明なラベルを作成する方法を示しています。

// ワークスペースからマップを読み込む :

```
Map map = Session.Current.MapFactory.CreateEmptyMap(new Size(500, 500));
MapWorkSpaceLoader mapLoader = new MapWorkSpaceLoader("Workspace.mws");
mapLoader.AutoPosition = false;
map.Load(mapLoader);
```

// オーバーライドするラベルの修飾子を作成して、ラベルのフォアグラウンドのフォント色を
// 透過性 50% に変更する :

```
TextStyle style = new TextStyle();
style.Font.ForeColor = Color.FromArgb((int)(255 * 0.5), Color.Black);
style.Font.Attributes = StyleAttributes.FontAttributes.ForeColor;
```

```
OverrideLabelModifier modifier = new OverrideLabelModifier();
modifier.Properties.Style = style;
modifier.Properties.Attributes = LabelAttribute.Style;
```

```
LabelLayer labelLayer = map.Layers["LabelLayerAlias"] as LabelLayer;
LabelSource labelSource = labelLayer.Sources["LabelSourceAlias"];
labelSource.Modifiers.Append(modifier);
```

```
// 次に、マップイメージをビットマップにエクスポートする
using (MapExport mapExport = new MapExport(map))
{
    mapExport.Border = ExportBorder.Off;
    mapExport.Format = ExportFormat.WindowsBmp;
    mapExport.Export("LabelExport.bmp");
}
```



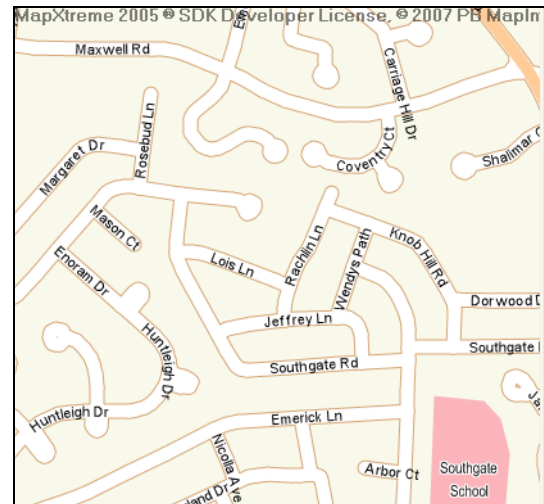
湾曲ラベルの拡張

湾曲ラベル (道路や川などの湾曲した線に沿った、弧や折れ線のラベル) のレンダリングが、今回の MapXtreme 2005 リリースで改良されました。湾曲ラベルをワークスペース マネージャで作成するには、ラベルレイヤを選択し、[位置] タブで [複数のセグメントに対して平行] を選択します。詳しい作成方法については、『開発者ガイド』第 22 章、「ワークスペース マネージャ」を参照してください。また、API による湾曲ラベルのレンダリングについては、『MapXtreme 2005 v.6.7 開発者リファレンス』にある「ILayout インターフェイス」のセクションを参照してください。

拡張される前の湾曲ラベル



拡張された後の湾曲ラベル



この機能は弧や折れ線のフィーチャの表示機能を拡張するための、複雑なアルゴリズムで構成されています。MapXtreme 2005 では、マップ内のすべての弧および折れ線レコードに対する湾曲ラベルを、湾曲していないラベルと同じように作成するための試みがなされています。例えば道路マップでは、道路がいくつもの折れ線や長い折れ線で作成されている場合があります。どの湾曲ラベルを作成し、それをどこに表示するかは、折れ線の長さや数、湾曲ラベルを作成するかどうかを決定するルール、およびラベル作成オプションの選択の、すべての要因によって変わってきます。

レイヤデータ内の折れ線や弧のセグメントの中には、ラベル名のエントリを含まないものもあります。その場合、セグメントのラベルは表示できません。

MapXtreme 2005 で湾曲ラベルを表示できるかどうかは、以下の多数のルールによって決定します。

- MapXtreme 2005 では、TrueType フォントを使用した湾曲ラベルだけを描画できます。TrueType 以外のフォントを選択した場合、同等の TrueType フォントが代わりに使用されるため、選択したラベルが予想どおりに表示されない場合があります。また、TrueType 以外を使用した水平ラベルを湾曲ラベルに変更した場合、フォントが置き換えられるために、変更後のラベルの表示が変わる可能性があります。
- ラベル文字列の部分が、ラベルを作成する弧や折れ線の長さに合っている必要があります。そうでない場合、ラベルが長すぎると判断され、破棄されます。
- 折れ線のぎざぎざがひどいと、MapXtreme 2005 で湾曲ラベルを描画できない場合があります。ただし、これは線の曲率によって変わります。
- 道路のセグメントはまっすぐに見えても、ラベルが湾曲する場合があります。その理由は、道路セグメントの折れ線データに、そのままのズーム レベルでは表示されない湾曲が含まれるからです。表示上ではわからない湾曲であっても、ラベルは道路の湾曲に従って作成されます。マップを十分に近い距離まで拡大してみれば、道路の湾曲が表示されるはずですが。
- 自分自身に向けて湾曲しているラベルは破棄され、表示されません。
- 湾曲ラベルも、湾曲していないラベルも、オーバーラップの検出、重複テキスト、セグメントの部分的なラベル付けのルールは同じです。これらの各ルールによって、ラベルがどのように、いつ表示されるかが変わります。
- 湾曲ラベルは [ラベル] ツールを使用して、弧や折れ線に沿ったどのポイントでも作成できます。
- 湾曲ラベルを他のラベルと同じようにドラッグすることはできません。ただし、[ラベル] ツールを使用して位置を変更することは可能です。
- 湾曲ラベルには、[ラベルの線] コントロールは使用できません。
- 湾曲ラベルと非湾曲ラベルは、ワークスペースのレイヤに保持されます。
- 湾曲ラベルに下線を付けることはできません。
- 湾曲ラベルは透過性やアンチエイリアスが有効かどうかにかかわらず、常に滑らかに表示されます。

座標系の機能拡張

新しい座標系

今回のリリースで、3つの座標系のサポートが追加されました。また、それぞれの座標系の EPSG コードも追加されました。

座標系の一覧については、..`Common Files\MapInfo\MapXtreme\6.x`にある `MapInfoCoordinateSystemSet.xml` を参照してください (6.x は MapXtreme 2005 のリリース番号です)。

以下の座標系のサポートが、今回のリリースに追加されます。

香港座標系

- Hong Kong 1980 Grid System

ルクセンブルグ (International 1924) 座標系

- Luxembourg 1930 / Gauss

スウェーデン座標系

- ST 74

S-JTSK (KROVAK) 座標系

- チェコ共和国とスロバキアで使用できるように、新しい S-JTSK 投影法が追加されました。

新しい EPSG コード

上記の座標系用に、次の EPSG コードも追加されました。

- Luxembourg 1930 / Gauss 用 EPSG:2169 エイリアス
- Hong Kong 1980 Grid System 用 EPSG:2326 エイリアス
- ST 74 用 EPSG:3152 エイリアス

EPSG コードの動的な追加

MapXtreme で現在サポートされていない EPSG コードや SRID コードをユーザが登録するために、以下の 2 つの方法が追加されました。

- プログラム上で MapInfo.Geometry.CoordSysFactory クラスを使って登録する
- アプリケーションの構成ファイルにコードマッピング要素を追加する

EPSG コードは、OPG (International Association of Oil & Gas Producers) の主導の下で、EPSG Geodetic Parameter Dataset として管理されている座標系の集まり (コードスペース) です。SRID コードは、Oracle Spatial テーブルのコードスペースを参照する一意の空間リファレンス番号です。

MapInfo.Geometry.CoordSysFactory クラスには、EPSG コードと SRID コードを登録するための 2 つの新しいメソッドが含まれています。どちらも 2 つのパラメータを受け取ります。1 つは、コードスペースを表す EPSG コードまたは SRID コードです。もう 1 つは、EPSG コードまたは SRID コードと対応付ける座標系情報です。これらのコードは動的に登録されますが、セッションの期間中しか存続しません。

EPSG コードや SRID コードを永続的に登録するには、EPSG コードと SRID コードのマッピング要素をアプリケーションの構成ファイルに新しく追加する必要があります。

詳細については、『開発者ガイド』の第 15 章、「空間オブジェクトと座標系」を参照してください。

エクスポート形式

イメージのエクスポートに、.NET と LEADTOOLS のどちらの API を使用するかを選べるようになりました。

MapExport クラスと LegendExport クラスは .NET framework API を使用して、BMP、GIF、JPG、PNG、および TIF ファイルをエクスポートできるようになりました。

場合によっては、.NET framework を使用した方がはるかに短い時間でエクスポートできることがあります。また、.NET API を使って短時間でエクスポートしても、エクスポートされたイメージの品質は変わりません。

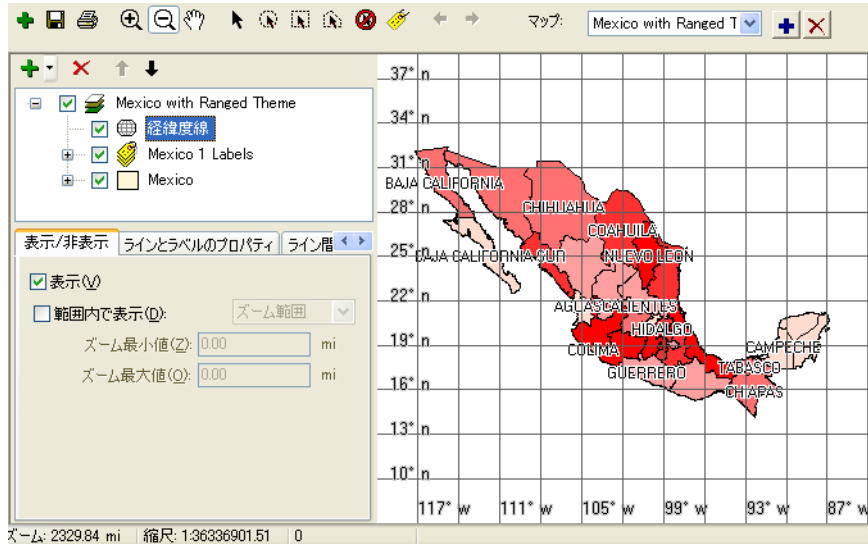
この新しい機能をサポートするために、WindowsBmp、WindowsGif、WindowsJpeg、WindowsPng、および WindowsTiff という 5 つの新しいエクスポート形式が ExportFormat 列挙体に追加されました。Visual Studio のデザイナー プロパティ ウィンドウで MapControl を選択すると、この 5 つの新しいイメージ形式タイプが ExportFormat プロパティのドロップダウンリストに表示されます。

エクスポート形式の詳細については、『開発者ガイド』の第 13 章、「アプリケーションへのマッピング機能の追加」を参照してください。

経緯度線レイヤ

経緯度線レイヤが MapXtreme 2005 の今回のリリースに追加されました。

経緯度線はマップに重ね合わせ、一定の間隔(5度ごと、15度ごとなど)で表示されるグリッド(緯度と経度の線)です。基準の枠組みを確立するときに使用します。

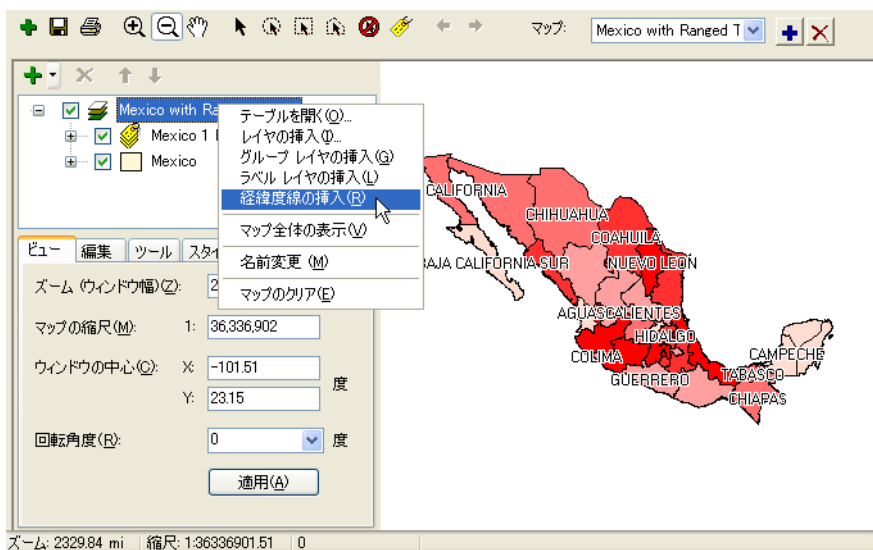


多くの点で、経緯度線は他のレイヤとまったく同じように機能しますが、以下の点で他の種類のレイヤとは異なります。

- 経緯度線レイヤを他の種類のレイヤのように編集することはできない。つまり、新しいフィーチャを追加できない。
- 経緯度線にラベルスタイルや位置を設定することは可能だが、経緯度線レイヤにラベルレイヤを作成することはできない。
- 経緯度線レイヤに主題図レイヤを作成することはできない。

経緯度線レイヤの追加

経緯度線はレイヤコントロール(マップのノードを右クリックしてコンテキストメニューを使います)から直接追加できます。



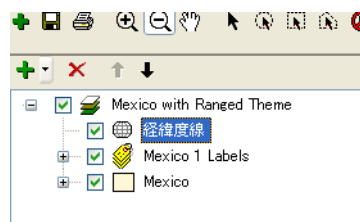
デフォルトでは、経緯度線の間隔と範囲は、マップ ウィンドウのズームとサイズによって決まります。したがって、経緯度線レイヤをマップに追加すると、経緯度線はズーム レベルに関係なく表示されます。

経緯度線レイヤの管理

経緯度線レイヤを追加した後、レイヤ コントロールから以下のさまざまな方法を使ってレイヤを管理およびカスタマイズすることができます。

- 経緯度線レイヤの表示/非表示、およびズーム/縮尺の設定の制御
- 主要な経緯度線とそれ以外の経緯度線の間隔の表示と設定
- 経緯度線のラベルや線の表示/非表示およびスタイルの制御
- 経緯度線の範囲 (東、西、南、北) の指定 (度、フィート、またはメートルで)
- レイヤ コントロール内でのレイヤの順番の上下移動
- 経緯度線レイヤの削除 (コンテキスト メニューを使う方法でのみ可能)
- 複数の経緯度線レイヤおよびグループ レイヤの作成

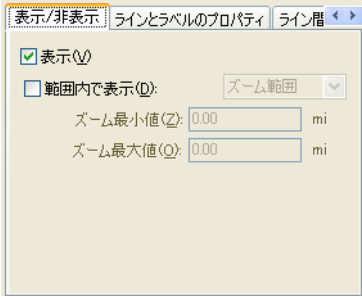
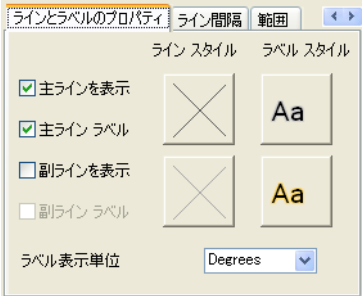
経緯度線レイヤは次のように経緯度線アイコンで示されます。



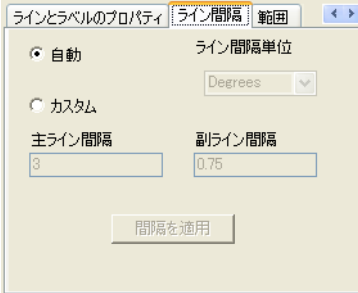
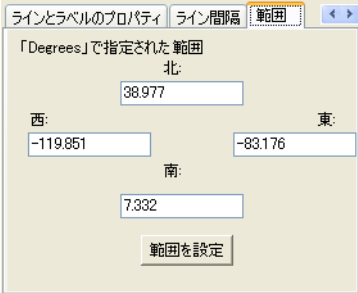
経緯度線レイヤの設定

レイヤコントロールでは、経緯度線レイヤの表示とスタイルを制御することができます。経緯度線レイヤをクリックすると、レイヤコントロールの下の方で、以下のタブが使用可能になります。

経緯度線レイヤのレイヤコントロールタブ

経緯度線レイヤのタブ	機能
表示/非表示	<p>レイヤの表示/非表示、および選択したレイヤの表示内のズーム範囲または縮尺を制御します。</p> 
ライン/ラベル プロパティ	<p>緯度と経度の主要な線とそれ以外の線について、表示/非表示、スタイル、ラベルを制御します。</p> 

経緯度線レイヤのレイヤコントロールタブ(続き)

経緯度線レイヤのタブ	機能
線の間隔	<p>緯度と経度の主要な線とそれ以外の線について、間隔 (インターバル) 設定の自動またはカスタムを制御します。カスタムの場合は、度 (デフォルト)、フィート、またはメートルで間隔を指定できます。</p> 
範囲	<p>経緯度線が作成される緯度と経度の範囲 (北、南、東、西) を制御できます。このタブの設定は、[線の間隔] タブで [カスタム] が選択されている場合だけ選択できます。</p>  <p>このタブに変更を加えた場合は、[範囲の設定] をクリックして変更を有効にしてください。</p>

Windows Vista の IIS 7.0

Microsoft Internet Information Services 7.0 は Windows Vista に付属しています (ただし、必ずしもインストールされているとは限りません)。Vista に IIS 7.0 がインストールされている場合、MapXtreme 2005 を正常にインストールするには、次の手順を実行する必要があります。

- Windows 認証と匿名認証を有効にします。
- [IIS 6 メタベースおよび IIS 6 構成との互換性] Web 管理ツールを有効にします。

注意: 詳しい方法については、『開発者ガイド』の第 2 章、「はじめに」を参照してください。

Vista システム上の Visual Studio 2005 を使用して Web アプリケーションを開発する場合は、MapXtreme 2005 のインストール前またはインストール後に、次の IIS 7.0 機能も有効にする必要があります。

- [Internet Information Services]: [World Wide Web サービス]: [アプリケーション開発機能]
 - .NET 拡張機能
 - ASP.NET
 - ISAPI 拡張機能
 - ISAPI フィルタ
- [Internet Information Services]: [World Wide Web サービス]: [セキュリティ]
 - Windows 認証

MapXtreme Web サンプル アプリケーションを IIS 7.0 で実行するためには、IIS 7.0 を切り替えて "Classic .NET AppPool" を使用する必要もあります。

HTTP 上でテンプレートを使用する MapXtreme Web アプリケーションを新規作成する場合は、IIS を調べて、新しいアプリケーションのアプリケーション プールの設定を "Classic .NET AppPool" にセットする必要があります。そうしないと、Visual Studio でデバッグをするときに原因不明のエラーが表示される場合があります。

LegendControl

新しい Web コントロールが今回の MapXtreme リリースに追加されました。LegendControl を使うと、特定の MapControl に凡例を表示できます。凡例は、対話操作のできないイメージとして返されます。表示する凡例は、LegendAlias またはマップの凡例リスト内の対応するインデックスを使って設計時に指定できます。LegendControl では、主題図凡例とシンボル凡例の両方がサポートされます。MapXtreme 2005 の Web コントロールの詳細については、『開発者ガイド』の第 6 章、「Web アプリケーション、コントロール、およびツール」を参照してください。

このコントロールをサポートするための、新しいサンプル Web アプリケーションも追加されました。Legend Control サンプルアプリケーションでは、現在の Web コントロール アーキテクチャをベースとして、カスタマイズされた LegendControl を作成して使用方法や、JavaScript を使ってサーバに要求を送信することによって、ページ全体を更新する必要なく主題図を作成したり、凡例を表示したりする方法を紹介しています。

このサンプルアプリケーションを使うと、次のことが可能になります。

- ズームや移動などの一般的な操作の実行
- LegendControl 内の凡例の表示または非表示
- ページに割り当てられたスペースに入りきらない凡例のスクロール

パフォーマンス拡張

19 ページの「主題図のパフォーマンスと使いやすさの拡張」も参照してください。

シームレス ラスタのパフォーマンス拡張

シームレス ラスタのパフォーマンスが拡張されました。最初のコンポーネント テーブルにどのハンドラが使用されているかをチェックし、そのハンドラを使って残りのコンポーネント テーブルを開くようになりました。

注意: シームレス グリッドは MapXtreme でサポートされていません。

StyleModifier の描画のパフォーマンス向上

スタイル修飾子を含むレイヤが、これまでのリリースよりも短時間で描画できるようになりました。これが実現したのは、描画のループの間に同じスタイル オブジェクトのコピーを何度も作成しないようにしたからです。代わりに、Modify() メソッドに渡されるスタイル オブジェクトのコンテンツが、描画するフィーチャごとに動的に変化するようになりました。したがって、アプリケーションの別の場所でスタイル オブジェクトを使用する必要がある場合は、必ずそのコピーを作成する必要があります。

注意: FeatureStyleModifier.Modify() メソッドに渡される、スタイル スタック内の CompositeStyles に対する Changed イベントは、発生しなくなりました。

サポート対象のオペレーティング システム、データベース、およびブラウザ

Pitney Bowes MapInfo の MapXtreme 2005 が Windows Vista と 64 ビット OS で動作可能になりました。

- Windows Vista Ultimate (x86, x64)¹

1. インストーラが COM+ オブジェクトの登録を実行するため、Windows Vista の場合、通常の管理者権限では不十分です。Vista ユーザは、Setup.exe を右クリックして [管理者として実行] を選択し、インストーラ用のシステム特権を取得する必要があります。

- Windows XP Professional x64 Edition
- Windows Server 2003 x64 Edition

MapXtreme 2005 を 64 ビット システムで実行するには、Microsoft の Windows-on-Windows (WoW64) による 32 ビットのエミュレーションモードが必要です。

以下のデータベースもサポート対象になりました。

- MapInfo SpatialWare® 4.9.2 for Microsoft SQL Server 2005 64 ビット

注意: ユーザアカウントに、同じ名前のスキーマが関連付けられている必要があります。これが必要なのは、Microsoft SQL Server 2005 において、セキュリティ管理機能を拡張するために所有者とスキーマを分離できるという動作が含まれるためです。

以下の Web ブラウザ¹のサポートも、MapXtreme 2005 の今回のリリースに追加されます。

- Internet Explorer 6.0
- Internet Explorer 7.0
- Firefox 2.0
- Netscape 8.1.2

システムおよびインストール要件の詳細については、『開発者ガイド』の第 2 章、「はじめに」を参照してください。

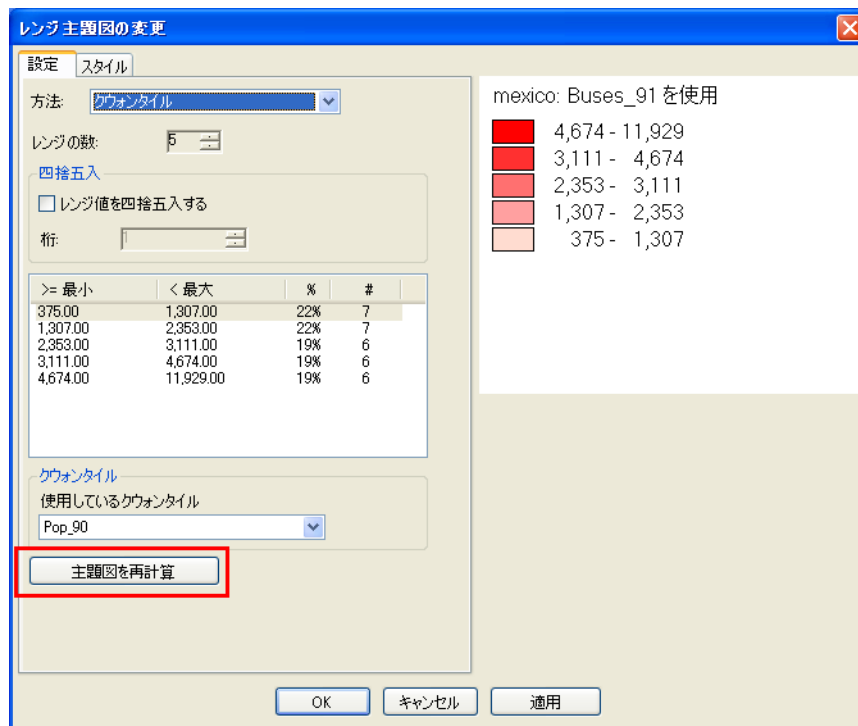
主題図のパフォーマンスと使いやすさの拡張

主題図の作成にさまざまな改良が加えられ、パフォーマンスとユーザの使用感の問題を解決するための修正が行われました。

- CreateThemeWizard では、デフォルトの主題図配分メソッドが EqualCountPerRange から EqualRangeSize に変更されました。EqualRangeSize は非常に高速な計算が可能なメソッドなので、ダイアログが短時間で表示されます。ユーザが配布メソッドを変更することも可能です。

1. MapXtreme 2005 のラーニング リソースは、デフォルトのブラウザ設定に関係なく、自動的に Internet Explorer に表示されません。これによって、デフォルトのブラウザ設定が変更されることはありません。

- [主題図を再計算] という新しいボタンが主題図設定コントロールに追加され、主題図 Bin の再計算をユーザが手動で起動できるようになりました。変更後の再計算は自動的に実行されなくなりました (つまり、"ライブ アップデート" は使えなくなりました)。変更後に再計算を実行するには、[主題図の再計算]、[適用] または [OK] ボタンの順に (または新しいタブに移動) クリックする必要があります。



[設定] タブのいずれかの値が変更されて、以下の操作の後に主題図の Bin を再計算する必要があるかどうかをチェックする動作も追加されました。

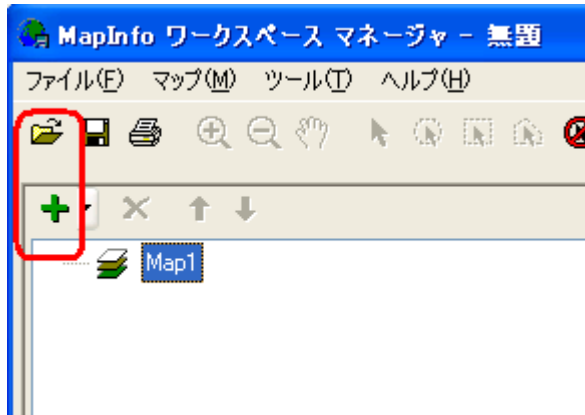
- [スタイル] タブまたは [凡例] タブへの移動
- [適用] ボタンのクリック
- [OK] ボタンのクリック
- ダイアログの作成時に、不要な Bin 配分の再計算を行わないようにするための変更も追加されました。これらの変更によって、GUI のパフォーマンスが大幅に改善されました。
- 主題図の処理が終了するのを待つまでの間、何らかの処理が行われていて、ダイアログがフリーズしていないことがユーザにわかるように、"待機" のカーソルが表示されるようになりました。

ワークスペース マネージャの使いやすさの向上

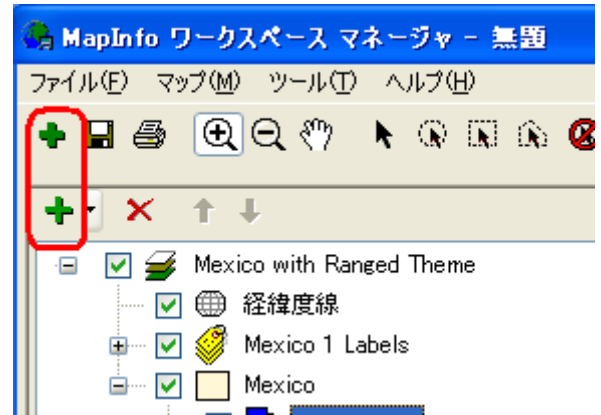
ワークスペース マネージャの使いやすさを向上するために、MapXtreme 2005 の今回のリリースに多数の変更が加えられました。このユーティリティ全体の解説については、『開発者ガイド』の第 22 章、「ワークスペース マネージャ」を参照してください。

- メイン ツールバーにある、現在のマップにテーブルを追加するためのアイコンは、"フォルダを開く" のアイコンの形をしていましたが、緑色のプラス記号のアイコンに変更されました。この目的は、フォルダのアイコンをユーザがワークスペース ファイルまたはアプリケーションを開くためのアイコンと勘違いするのを防ぐことにあります。

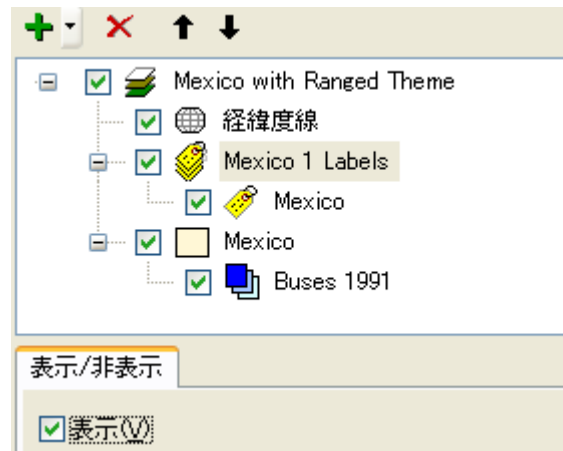
変更前:



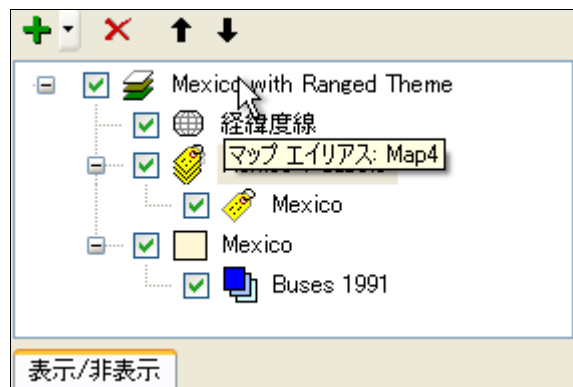
変更後:



- ワークスペース マネージャを実行すると、ツリー内の各ノードにチェック ボックスが表示されるようになりました。このチェック ボックスの機能は [表示/非表示] タブの [表示] チェック ボックスと同じものです。どちらのチェック ボックスをクリックしても、レイヤの表示/非表示を切り替えることが可能です。ツリーにチェック ボックスが追加されたのは、単に便利だからです。これを使えば、レイヤの表示の切り替えが一度クリックするだけでできます。以前は、レイヤを選択するために一度クリックし、その後にタブ内の [表示] チェック ボックスをもう一度クリックする必要がありました。新しいチェック ボックスにより、ユーザがレイヤの表示を設定するために必要なマウス操作とクリックの回数が少なくなりました。



- ワークスペース マネージャのレイヤ コントロールで、マップのノード (レイヤ ツリーの一番上のノード) にマウスのカーソルを合わせると、ツールチップにマップ エイリアスが表示されるようになりました。これは、開発時にマップのエイリアスを知る必要がある場合 (Web コントロールのプロパティを設定するとき、マップ エイリアスを指定する必要があるなど) に便利です。



- レイヤ設定の [オプション] タブの動作を変更し、レイヤが現在非表示であるという理由で、このタブ内のチェック ボックスをオフにしたり、無効にしたりすることをやめました。レイヤの表示/非表示が [オプション] タブに影響することはありません。ユーザはレイヤが現在表示されているかどうかに関係なく、レイヤの設定を確認することができます。
- マップ描画機能の拡張をサポートするために、レイヤ コントロールに新しい [スタイル] タブが追加され、透過性とアンチエイリアシングの利用が可能になりました (2 ページの「GDI+ による透過性とアンチエイリアシングを用いたレンダリングの拡張」を参照してください)。
- [ラベルの変更をクリア] ボタンがラベル設定の [表示/非表示] タブに追加されました。このボタンをクリックすると、ラベル ツールを使って手動で追加された各ラベルが削除され、ラベルが元の位置に還元されて、デフォルトの状態に戻されます。
- レイヤ コントロールの [表示/非表示] タブで、ズーム範囲のラベルが [最小ズーム] と [最大ズーム] から [ズーム最小値] と [ズーム最大値] に変更されました。

ズーム範囲を指定する場合、最大値は指定した値を含みません。つまり、レイヤはマップのズームが最大値よりも小さい場合にだけ表示されます。したがって、ズームの最大値を 5000 マイルに設定し、マップを 5000 マイルちょうどにズームした場合、レイヤは表示されません。

- レイヤ コントロールの FeatureLayer ノードを右クリックして、[このレイヤだけを選択可能にする] という新しいメニュー項目を選択できるようになりました。
- ビュー ダイアログの変更 -
 - ダイアログをキャンセルで終了した場合は変更が適用されず、また無効な値を入力して [OK] をクリックした場合はダイアログを閉じることができません。
 - ズーム単位を変更しても、ズーム値はリセットされません。
- シームレス ラスタ レイヤのスタイルのオーバーライドが可能になりました。スタイル オーバーライドが強調表示されている場合に、[表示/非表示] タブの [ラスタ イメージ スタイル] ダイアログを利用することができます。
- レイヤ コントロールでスタイル オーバーライドのコピーが可能になりました。あるレイヤにスタイル オーバーライドを作成すれば、そのオーバーライドを (レイヤ ツリーから) 選択して、それを別のレイヤにドラッグすることで、他のレイヤにオーバーライドをコピーすることができます。
- LayerControl の [座標系] ボタンの動作を修正しました。このため、座標系が定義されていなければ、[座標系の選択] ダイアログが、投影法が未選択で、[OK] ボタンが無効の状態が表示されます。
- [レイヤの削除] コンテキスト メニュー項目に割り当てられたショートカット キーを、Ctrl + R から Del に変更しました。レイヤを選択して Del キーを押せば、レイヤを削除できます。

強化された機能

MapXtreme 2005 バージョン 6.7 では、以下の機能が変更されています。

- ◆ [AddColumns](#) と [BindType](#)
- ◆ [API](#) の追加と変更
- ◆ [ファイル名の長さ](#)
- ◆ [透過性の印刷](#)
- ◆ [試用版ライセンスのウォーターマーク](#)
- ◆ [Windows Server 2003 インストール時のメッセージ](#)

AddColumns と BindType

[BindType](#) が [Static](#) または [Dynamic](#) の場合に、[MapInfo.Data.AddColumns](#) がソース データとバインド テーブルの間の関係を保持する処理を実行しなくなりました。この処理を実行すると、特にサイズの大きいテーブルをバインドする場合、バインド処理に長い時間がかかります。[Static](#) と [Dynamic](#) のバインドではデータとバインド テーブルの間の関係を保持する必要がないことから、パフォーマンスを高める目的でこの処理が省かれました。[AddColumns](#) は [BindType](#) が [DynamicCopy](#) のときにだけこの処理を実行します。[DynamicCopy](#) の場合は、ソース データ テーブルの更新時にバインド テーブルがリフレッシュされる可能性があるからです。詳細については、『[開発者ガイド](#)』の第 10 章、「[データでの作業](#)」を参照してください。

API の追加と変更

- ◆ 新しいクラス、[MapStyleControl](#) が [MapInfo.Windows.Controls](#) 名前空間に追加されました。これはデスクトップ [LayerControl](#) のタブに表示可能なコントロールです。ユーザはこのコントロールを使用して、マップのスタイルやレンダリング オプション (アンチエイリアス処理、透過性など) を設定できます。詳細については、[2 ページの「GDI+ による透過性とアンチエイリアシングを用いたレンダリングの拡張」](#) および [MapXtreme 2005 v.6.7](#) の開発者リファレンス ヘルプを参照してください。
- ◆ [GraticuleLayer](#)、[DMS](#)、および [GridExtents](#) という 3 つの新しいクラスが [MapInfo.Mapping](#) 名前空間に追加されました。
 - ◆ [GraticuleLayer](#) は、マップ ウィンドウに一連の経線と緯線を描画します。[GraticuleLayer](#) はグリッド線と似ていますが、マップ ビューに応じて変化するという点が異なります。詳細については、[14 ページの「経緯度線レイヤ」](#) および [MapXtreme 2005 v.6.7](#) の開発者リファレンス ヘルプを参照してください。
 - ◆ [DMS](#) は度分秒情報を格納し、対応する小数度と、度分秒の文字列表現を返すユーティリティ クラスです。
 - ◆ [GridExtents](#) はグリッドのエリアを表す長方形を格納するユーティリティ クラスです。
- ◆ [TableInfoServer.Temporary](#) プロパティは、[True](#) にセットされると例外をスローするようになりました。このタイプのテーブルに設定できるのは [False](#) だけです。[Temporary](#) プロパティが使用されるのはテーブルを作成するときですが、[MapXtreme](#) は RDB サーバ テーブルの作成をサポートしていません。
- ◆ スタイル修飾子を含むレイヤの描画スピードを高めるため、描画ループの間に同じスタイル オブジェクトのコピーを複数作成することはなくなりました。代わりに、[Modify\(\)](#) メソッドに渡されるスタイル オブジェクトのコンテンツが、描画するフィーチャごとに動的に変化するようになりました。したがって、アプリケーションの別の場所でスタイル オブジェクトを使用する必要がある場合は、必ずそのコピーを作成する必要があります。[FeatureStyleModifier.Modify\(\)](#) メソッドに渡される、スタイル スタック内の [CompositeStyles](#) に対する [Changed](#) イベントも、発生しなくなりました。

ファイル名の長さ

ファイル名の長さの最大値に、オペレーティング システムでセットされる [MAX_PATH](#) (通常は 245 文字) を使うように変更されました。以前は、125 文字に制限されていました。

透過性の印刷

透明なラスタの印刷が、他の透過性の印刷と共にサポートされるようになりました。

透明なラスタの印刷に伴う制限については、「既知の問題」のセクションにある[37 ページ](#)の「半透明ラスタ」を参照してください。

試用版ライセンスのウォーターマーク

試用版ライセンスを使って開発されたアプリケーションでは、非常に小さい (SDK ライセンスのウォーターマークと似た大きさの) ウォーターマークがマップ上に表示されるようになりました。ここには試用版ライセンスの残日数も表示されます。

Windows Server 2003 インストール時のメッセージ

MapXtreme 2005 のインストール ブラウザに以下のメッセージが追加され、Windows Server 2003 (32-bit x86) Edition には別の .NET Framework 1.1 Service Pack 1 のインストールが必要であることがユーザに警告されるようになりました。

Windows Server 2003 (32-bit x86) Editions への .NET Framework 1.1 Service Pack 1 のインストールは、「CD の参照」によって表示されるインストール プログラムを使用してください。

このサービス パックへの CD のパスは `¥INSTALL¥MSDOTNETFRAMEWORK¥v1_1¥SP1¥WindowsServer2003` です。

バグ フィックス

MapXtreme 2005 の今回のリリースの開発中に、以下の問題が解決されました。

- ◆ データ アクセス
- ◆ デスクトップ アプリケーション
- ◆ ジオコード
- ◆ レイヤ
- ◆ マッピング
- ◆ ラスタ イメージ
- ◆ サンプル アプリケーション
- ◆ スタイル
- ◆ テーブル
- ◆ 主題図
- ◆ ツール
- ◆ Web アプリケーション
- ◆ Web コントロール
- ◆ WMS
- ◆ ワークスペース マネージャ

データ アクセス

クエリ ステートメント

MapXtreme がクエリの結果を正しい順番で返すことができないという、報告済みの2つのケースの問題が修正されました。Where 句と OrderBy 句の両方でフィールドが指定されたクエリから、結果を正しい順番で返すことができません。同じクエリに OrderBy と GroupBy が指定されている場合でも、OrderBy が無視されなくなりました。

日付フィールド

Oracle Spatial のデータ テーブルから Null の日付フィールドを取得しても、例外がスローされなくなりました。

Case ステートメント

Case ステートメントを含むクエリの結果である Oracle のテーブルを追加している場合でも、MapXtreme 2005から正しいフィールドエイリアスが返されるようになりました。

フィールドの追加とドロップ

主題図作成時の、フィールドの追加とドロップの処理が修正されました。

RenditionType と RenditionColumn

テーブルの MapInfo_MapCatalog のエントリで RenditionType が 0、RenditionColumn が Null に設定されている場合、そのテーブルにフィーチャを挿入しようとしたときに、エラーが返されなくなりました。

MapInfo_MapCatalog で RenditionType が 0、RenditionColumn が Null に設定されている場合でも、MI_STYLE フィールドを含むリモート データベース テーブルが読み込まれるようになりました。

TableInfoServer.Temporary プロパティ

TableInfoServer.Temporary プロパティは、True にセットされると例外をスローするようになりました。このタイプのテーブルに設定できるのは False だけです。Temporary プロパティが使用されるのはテーブルを作成するときだけです。MapXtreme は RDB サーバ テーブルの作成をサポートしていません。

デスクトップ アプリケーション

MapXtreme セッション

デスクトップ アプリケーションの `MapInfo.Session` が見つからないという問題は解決されました。

デスクトップ アプリケーション

Visual Studio 2003 Windows アプリケーション テンプレートから作成されたデスクトップ アプリケーションが、`EllisWrapper.netmodule` エラー メッセージを返さなくなりました。

ジオコード

25 の倍数のアドレスを含むジオコード リクエストが、エラーなしで処理されるようになりました。デフォルト値である 25 の倍数 (50、75、100 など) のアドレスが 1 つのリクエストで送信されると、メソッドがエラーになっていました。

MapXtreme ジオコード クライアントで、URL の検証、サービス情報が正しいことの確認、および (指定されている場合) ユーザ名とパスワードの認証を含む単一のジオコード リクエストが、`Envinsa` へ正しく送信できるようになりました。以前は、2 つのリクエストで送信する必要がありました。

レイヤ

LayerControl オプション タブ

デスクトップ LayerControl オプション タブの、選択および編集が可能かどうかの設定は、レイヤの表示/非表示に影響されなくなりました。つまり、([表示/非表示] タブの [表示] または [範囲内で表示] の設定によって) 非表示になっているレイヤでも、選択および編集が可能かどうかを設定できます。

マッピング

DisplayTransform.ToDisplay

`MapInfo.Mapping.Map.DisplayTransform.ToDisplay` が正しい座標を返すようになりました。

凡例

凡例の境界は、幅にピクセルではなくポイントを使用した場合でも正しく表示されるようになりました。

ラスタ イメージ

複数の CPU を持つマシンでのラスタ イメージのレンダリング機能が拡張されました。イメージが既に存在する場合、MapXtreme はそのイメージを上書きするのではなく削除します。

サンプル アプリケーション

非デフォルト インストールの Web.Config ファイル

MapXtreme サンプル アプリケーションの web.config ファイルには、サンプル データのデフォルトのインストール先へのパスが記述されています。MapXtreme を C:\Program Files 以外の場所にインストールした場合は、自分のインストール場所に合わせて web.config ファイルを編集する必要があります。これは、MapXtreme を English US (ENU) バージョン以外の Windows XP でインストールした場合も同じです。その場合のデフォルトの場所は、通常は C:\Programmer になります。

web.config ファイルの変更方法について、詳しくはサンプル アプリケーションの Readme.rtf ファイルに説明されています。

ラーニング リソース内のサンプル アプリケーションのリンク

システムにインストールされたサンプル アプリケーションに一致するサンプル アプリケーションへのリンクだけを提示するように、MapXtreme が修正されました。サンプルを何もインストールしないよう選択した場合 (カスタム インストールの場合)、サンプルのリストには MapXtreme が提供するサンプルのリストだけが表示され、実際のサンプルへのリンクは表示されません。このリストを表示するには、[スタート]、[すべてのプログラム]、[MapInfo]、[MapXtreme 6.7]、[ラーニング リソース] の順にクリックします。ブラウザの左側のペインにある [ラーニング リソース] グループから、[サンプル アプリケーション] を選択してください。

すべての Visual Studio 2003 Web リンクおよびデスクトップ リンクで、Visual Studio .NET 2003 はプロジェクトを開始します。Visual Studio 2005 でも、デスクトップ リンクは同様に動作しますが、Web プロジェクトの場合、Visual Studio プロジェクト ファイルが存在しないため、ソリューション ファイルが開始されます。Web コントロールのソース ファイルの場合は、cs と vb のプロジェクトを含むフォルダが開始されます。



サンプル アプリケーション

MapXtreme v 6.7 で、サンプル アプリケーションに対するさまざまな修正が行われました。以下のサンプルが正しく動作するようになりました。

デスクトップ サンプル

- WfsClient
- Search (VB)
- ThemesDialog

- PieTheme
- Geocode
- Find
- RoutingandGeocoding

Web サンプル

- FindSampleWeb (VB)
- HTML 検証エラーを表示していたすべての VS 2005 C# および VB サンプル

スタイル

Region と白い境界

Null 境界が選択されている場合に、Region フィーチャが白い境界で表示されることはなくなりました。

StyleModifier の描画のパフォーマンス向上

スタイル修飾子を含むレイヤが、これまでのリリースよりも短時間で描画できるようになりました。これが実現したのは、描画のループの間に同じスタイル オブジェクトのコピーを何度も作成するのをやめたからです。代わりに、Modify() メソッドに渡されるスタイル オブジェクトのコンテンツが、描画するフィーチャごとに動的に変化するようになりました。したがって、アプリケーションの別の場所でスタイル オブジェクトを使用する必要がある場合は、必ずそのコピーを作成する必要があります。また、FeatureStyleModifier.Modify() メソッドに渡される、スタイル スタック内の CompositeStyles に対する Changed イベントは、発生しなくなりました。

テーブル

テーブル名の長さ

テーブル名とテーブル エイリアスの、31 文字の長さ制限がなくなりました。これらは使用可能なメモリの量が許す限り、いくらでも長くすることができます。これによって、テーブル名に _Selection を付加するデータバインド テーブルで長さの問題が起きにくくなります。

ファイル名の長さ

ファイル名の長さの最大値に、オペレーティング システムでセットされる MAX_PATH (通常は 245 文字) を使うように変更されました。以前は、125 文字に制限されていました。

TableInfoView と長いクエリ

512 文字よりも長いクエリ文字列を使用した TableInfoView の作成が可能になりました。

英語以外のデータを含む TAB ファイル

MapInfo Professional で英語以外の言語で作成したインデックスを持つ TAB ファイルが、MapXtreme 2005 で認識されるようになりました。これらのファイルには、MapInfo で正しく再オープンできるように、元のインデックスとソート順が保持されます。

レコードの削除

SpatialSchemaXY を使用したテーブルのレコードの削除に関連する問題が修正されました。

テーブルのロック

フィーチャがデフォルトの選択に追加され、続いてクリアされた後に、MapInfo Professional でテーブルを編集するためにテーブルがロックされることはなくなりました。

Oracle のビュー

VIEWPORT_TRANSFORM を呼び出した後にスローされる Oracle エラー、ODCIIndexStart に関連する問題が修正されました。

カスタム名を使ったスタイル フィールドを含むテーブルをベースとした Oracle ビューが、MapXtreme 2005 で検索可能になりました。以前の MapXtreme では、フィールド名が MI_STYLE である場合だけ検索されていました。

シームレス ラスタのパフォーマンス拡張

シームレス ラスタのパフォーマンスが拡張されました。最初のコンポーネント テーブルにどのハンドラが使用されているかをチェックし、そのハンドラを使って残りのコンポーネント テーブルを開くようになりました。

注意: シームレス グリッドは MapXtreme でサポートされていません。

SpatialWare HG_CEN_X 関数

SpatialWare 関数である HG_CEN_X は、フィーチャが TableInfoServer テーブルで編集された後にも中心点の値を正しく返すようになりました。以前は、フィーチャが別の場所に移動されることによって編集された場合に、関数は中心点の値を更新するのではなく Null 値を返していました。

TableInfoNative

TableInfoNative を使用して作成されたテーブルが正常に更新できないという問題は修正されました。これまではフィールドが読み取り専用で作成されていました。

主題図

Null 値を含む [レコード数均等] の Bin を使用したレンジ主題図の作成が正しく機能するようになりました。

クウォンタイル レンジが、別のクウォンタイルのフィールドを選択した場合に再計算を正しく実行するようになりました。また、ModifyTheme ダイアログに [主題図の再計算] ボタンが追加されました。別の配分メソッドに変更する場合は、このボタンをクリックして計算を更新する必要があります。

[ゼロと空白を無視] チェック ボックスをオンにし、フィールドに [ランク] を選択した IndividualValue 主題図を作成する場合に、CreateTheme ダイアログが正しく機能するようになりました。凡例のプレビューにゼロのランクは表示されません。

ツール

Microsoft vgx.dll エラー

距離計算およびポリゴン選択の Web ツールは、複数回使用した場合にも、MapXtreme をクラッシュさせることはなくなりました。これは Microsoft 側の vgx.dll のバグです。Microsoft 社からは、Microsoft Internet Explorer 6.0 で Web ページを表示すると、Internet Explorer が停止またはクラッシュし、そして、vgx.dll のアクセス違反が発生するという問題が報告されています。この問題は、Microsoft Windows XP Service Pack 2 (SP2) を実行しているコンピュータで、Web ページにベクトル グラフィックスをレンダリングすると発生します。詳細については、<http://support.microsoft.com/?scid=kb;en-us;885932> を参照してください。Microsoft KB885932 の修正プログラムをインストールしたくない場合は、COM+ のアクティベーション時間を長くします (たとえば、60000 ~ 120000 ミリ秒)。

Firefox および Netscape のツール

使用時に線、円、または長方形ボックスを表示する Web ツール (例えば ZoomIn、RadiusSelect、Distance など)、および移動ツールが、Firefox と Netscape で正しく動作するようになりました。

Pan Web ツール

移動ツールは Web アプリケーションの MapControl の外側で使用しても IndexOutOfRangeException を生成しなくなりました。

移動/拡大縮小 Web ツール

Pan、ZoomIn および ZoomOut の Web ツールの使用時に、左と右のマウス ボタンが正しく機能するようになりました。各ツールで左マウス ボタンをクリックすると、対話操作 (移動または拡大縮小) が期待どおりに実行されます。マウスの右ボタンをクリックすると、常にショートカット メニューが表示されます。移動または拡大縮小の対話操作は行われません。

デスクトップ ツール

デスクトップの選択ツールを、マウスの中央または右のボタンに問題なく割り当てられるようになりました。

デスクトップ アプリケーションの半径/長方形/ポリゴン選択ツールが、大きいテーブル内のオブジェクトを選択するときに、待機のカーソルを短時間で表示するようになりました。

ALT キーを押しても、ポリゴン選択と描画ツールの動作が止まることはなくなりました。Shift キーや Ctrl キーと同様に、Alt キーを押してもツールは何も反応しませんが、間違っても Alt キーを押した場合にこの問題が起きていました。

Web アプリケーション

Web ガーデン

Web アプリケーションの初期ページでマップ イメージの読み込みが失敗するという問題が修正されました。Web アプリケーションでこの問題が発生していたのは、Windows Server 2003 でアプリケーションプール内の Web コントロールを使用する場合に、Windows 2003 Server の Web ガーデンが 1 よりも大きく設定されているときです。生成されたイメージを保持するためにサーバがイメージ キャッシュを作成した後、そのページをクライアントに (img.src がキャッシュされたイメージを指している状態で) 送信したときに問題が発生していました。その結果、ページにイメージではなく赤いバツ印が表示されていました。MapXtreme はすべてのリクエストに対して、ライブ マップの GetMap リクエストを作成するようになりました。

Label および MemTable

Web アプリケーションが、ラベル テキストではなく MapBasic のスタイル書式設定インストラクションを MemTable から返すという問題は修正されました。

Web コントロール

MapAlias と事前読み込みのワークスペース

Web フォームでデザイン時に MapControl が削除され置き換えられるために、実行時にクラッシュが起きる可能性がある問題が修正されました。

Web コントロールと HTML 4.0.1 への準拠

Visual Studio .NET 2003 と Visual Studio 2005 を使用する場合、MapXtreme 2005 は現在の Java スクリプト対応 Web コントロール、および v6.5 よりも前の Web コントロールから HTML 4.0.1 に準拠した有効なコードを生成します。Visual Studio 2005 には、以下に示すように検証エラーを生成するケースが 2 つ残っていますが、それらが Web コントロールの機能に影響を及ぼすことはありません。

- “BACKGROUND” 属性がない
- "ID" の属性の値が無効である。名前の先頭を "_" にすることはできない

最初のケースで、BACKGROUND はページの先頭にある装飾用の MapInfo ヘッダ (<td background="images/header_bg.gif") を参照します。この参照はただ削除してください。

2 つ目のケースで、type="hidden" name = "_VIEWSTATE" id="__VIEWSTATE" は Microsoft ASP.NET 2.0 が生成する構文です。これは、ページの DOCTYPE を以下のように変更して、XHTML 1.0 を指定すると回避できます。

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
```

MapControl の高さと幅の設定

Web の MapControl にパーセンテージの値を使って幅と高さのプロパティを設定すると、表示が正しく行われない問題は修正されました。

LayerControl の表示の動作

主題図やスタイル オーバーライドの表示、非表示のチェック ボックスをオンまたはオフにするとき、Web の LayerControl が正しく動作するようになりました。LayerControl に複数の主題図あるいはスタイル オーバーライドが含まれる場合に、1 つのレイヤのチェック ボックスをオンにしても、すべてのレイヤがオンになることはなくなりました。

Visual Studio 2005 での VB ソース コードのコンパイル

新しい Java スクリプト対応 Web コントロールの VB ソース コードが、Visual Studio 2005 でエラーを出さずにコンパイルされるようになりました。不要な assemblyinfo.vb はプロジェクトから削除されました。

WMS

WMS 機能 (dtdUrlCapabilities や dtdUrlException) を要求するとき、MapXtreme の web.config ファイルに WMS サーバへの完全な URL を記述する必要があります。これらの変数に URL が指定されていないと、MapXtreme はデフォルトの URL (http://schemas.opengis.net) を XML 出力に返します。web.config ファイルに完全な URL を指定することで、ファイアウォールの背後にある Web アプリケーションやプロキシ サーバへのアクセスに関する問題を取り除くことができます。相対 URL や正しくない URL を指定した場合でも、WMS サーバはその URL を使って XML を生成しますが、要求している側のクライアントが検証用の XML パーサを使用していると、XML 出力の検証は行われません。

ワークスペース マネージャ

ワークスペース マネージャのノードを編集するとき、2 つのレイヤを編集しても問題が発生しなくなりました。各レイヤのノードを、他方のレイヤのノードに影響を与えることなく移動することができます。

長いファイル名の付いた .TAB ファイルをワークスペース マネージャ開いても、エラーが発生しなくなりました。

既知の問題

ここで取り上げる問題は、この製品の前回のリリース以降に報告されたものです。これらは現在調査中、または解決に向けて作業中です。

- ◆ 64 ビットの問題
- ◆ ADO.NET のシリアライゼーション
- ◆ データ アクセス
- ◆ 拡張レンダリング
- ◆ 経緯度線
- ◆ LayerControl
- ◆ ラベル
- ◆ 凡例
- ◆ ライセンス
- ◆ マッピング
- ◆ 大きなテーブルに関するパフォーマンスの問題
- ◆ 印刷
- ◆ ラスタ イメージ
- ◆ サンプル アプリケーション
- ◆ サンプル コード
- ◆ シリアライゼーション
- ◆ スタイル
- ◆ Tables
- ◆ ツール
- ◆ Visual Studio 2005
- ◆ Web アプリケーション
- ◆ Web コントロール
- ◆ WMS/WFS
- ◆ ワークスペース マネージャ
- ◆ その他の問題

64 ビットの問題

64 ビット マシンで MapXtreme 2005 デスクトップ アプリケーションを実行すると、BadImageFormatException を受け取る場合があります。MapXtreme は 64 ビット システムの 32 ビット エミュレーション モード (WoW64) で実行されるので、Platform Target に x86 を使用するよう、Visual Studio 2005 でビルドしているアプリケーションを割り当てる必要があります。プロジェクトのプロパティで、[ビルド] タブをクリックして [Platform Target] に x86 を選択してください。

64 ビット Windows システムでの .NET Framework 1.1 と 2.0 の切り替え

MapXtreme 2005 は 32 ビット アプリケーションであり、64 ビット システム上では .NET Framework 1.1 でネイティブに動作するか、または .NET Framework 2.0 で Microsoft の Wow64 テクノロジーを介して動作します (18 ページの「サポート対象のオペレーティング システム、データベース、およびブラウザ」を参照)。

64 ビット システム上で .NET Framework 1.1 と 2.0 を切り替える方法について、以下の URL で説明されています。<http://support.microsoft.com/kb/894435>。次に、その重要なポイントについて説明します。

64 ビット システム上の .NET Framework 1.1 で MapXtreme 2005 を使用するには

1. 以下のスクリプトを実行します。

```
cscript %SYSTEMDRIVE%\inetpub\adminscripts\adsutil.vbs SET W3SVC/AppPools/Enable32bitAppOnWin64 1
```

2. 以下のコマンドを実行します。
`%SYSTEMROOT%\Microsoft.NET\Framework\v1.1.4322\aspnet_regiis.exe -i`
3. IIS マネージャの [Web サービス拡張] で、ASP.NET version 1.1.4322 が [許可] にセットされていることを確認します。

64 ビット システム上の .NET Framework v2.0 で MapXtreme 2005 を使用するには

1. 以下のスクリプトを実行します。
`cscript %SYSTEMDRIVE%\inetpub\adminscripts\adsutil.vbs SET W3SVC/AppPools/Enable32bitAppOnWin64 1`
2. 以下のコマンドを実行します。
`%SYSTEMROOT%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.50727\aspnet_regiis.exe -i`
3. IIS マネージャの [Web サービス拡張] で、ASP.NET version 2.0.50727 (32-bit) が [許可] にセットされていることを確認します。

ADO.NET のシリアライゼーション

共有 `DataTable` インスタンスへの参照を再確立する機能が安定しない (`disjoint` なコピーが作成される) という問題があるため、`TableInfoAdoNet` をベースとしたテーブルの自動シリアライゼーションは、現在サポートされていません。『開発者ガイド』の第 10 章では、この機能が安定し、完全にサポートされるまで使用できる手動の手順について解説されています。リリース ノートをチェックして、この機能に関する最新の情報および更新情報を確認するようにしてください。

データ アクセス

MS Access の更新クエリ

MS Access テーブルで更新クエリを実行すると、スタイルとオブジェクトの挿入に失敗します。以下に例を示します。

```
insert into custpointswest (Obj, MI_Style) values ( newobject, newstyle))
```

ただし、以下に示すように、Obj フィールドを追加するだけの場合、クエリは動作します。

```
insert into custpointswest (Obj) values ( MI_Point  
(-121.331658, 38.546608, 'EPSG:4326'))
```

MS Access での接続エラー

Microsoft Access データベースにアクセスする MapXtreme Web アプリケーションが、接続を試みてエラーになる場合があります。24 時間 365 日稼動する高負荷対応のサーバ環境における、Microsoft Jet データベース エンジンの制限によるものです。Jet データベース エンジン (MS Access のバックグラウンドのエンジン) では、同時に接続できる数は 64 に限られています。これには、スレッドすべてのテーブルの数が含まれます。高負荷の Web 環境では、同時接続できる実際の数はもっと少ないでしょう。詳細については、以下の Microsoft 技術文書を参照してください。
<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;EN-US;q222135>.

Microsoft では、高いレベルでのデータ保全性または同時実行性を必要とする Web アプリケーションの場合は、IIS とともに MS SQL Server を使用することを推奨しています。

Catalog.Search のリーク

`SearchResultProcessor` を使用して `Catalog.Search` を実行すると、Catalog 内の `ResultSet` テーブルがリークします (つまり、余分な `ResultSetTables` が Catalog に残ります)。また、どの `ResultSet` テーブルが作成されたのかを、ユーザが判断するための機能がありません。

データ挿入時のクラッシュ

INSERT INTO... SELECT... ステートメントを使用して、あるテーブルから別のテーブルに大量のレコードを一度に挿入すると、マシンがメモリ不足になってクラッシュすることがあります。内部の SELECT の結果がすべてメモリ内の一時テーブルに読み込まれるため、この大量のデータが使用可能なメモリを使い果たしてしまう可能性があるからです。INSERT INTO...SELECT... ステートメントの代わりに SELECT の結果を繰り返し処理するループを使用して、各レコードごとに挿入処理を実行することを検討してみてください。

SQL クエリ中のインデックス作成エラー

GROUP BY 句で参照されたフィールドから値を組み合わせたものが、ステートメント実行中に内部的に作成される一時テーブルのキー値の作成に使用されます。一時テーブルのキー値フィールドに対してインデックスが作成されますが、現在このインデックスの値は最大長が 254 に制限されています。インデックス作成時のエラーを避けるために、複合キーがこの最大長を超えないように注意してください (つまり、GROUP BY 句に長い文字列フィールドを使うことは避けてください)。

拡張レンダリング

透過性のスライダ コントロール

すべてのスタイル ダイアログにある透過性のスライダ コントロールは、拡張レンダリング (透過性) が有効になっていなければ効果がありません。拡張レンダリングが無効でも、スタイル ダイアログ内の透過性のスライダ コントロールは有効になっています。透過性のトラックバーが使用できても、[透過性を有効にする] がオンになっていなければ半透明で表示されないことに注意する必要があります (透過性の有効化の詳細については、「新機能」のセクションの 2 ページの「GDI+ による透過性とアンチエイリアシングを用いたレンダリングの拡張」を参照してください)。

色選択ダイアログ

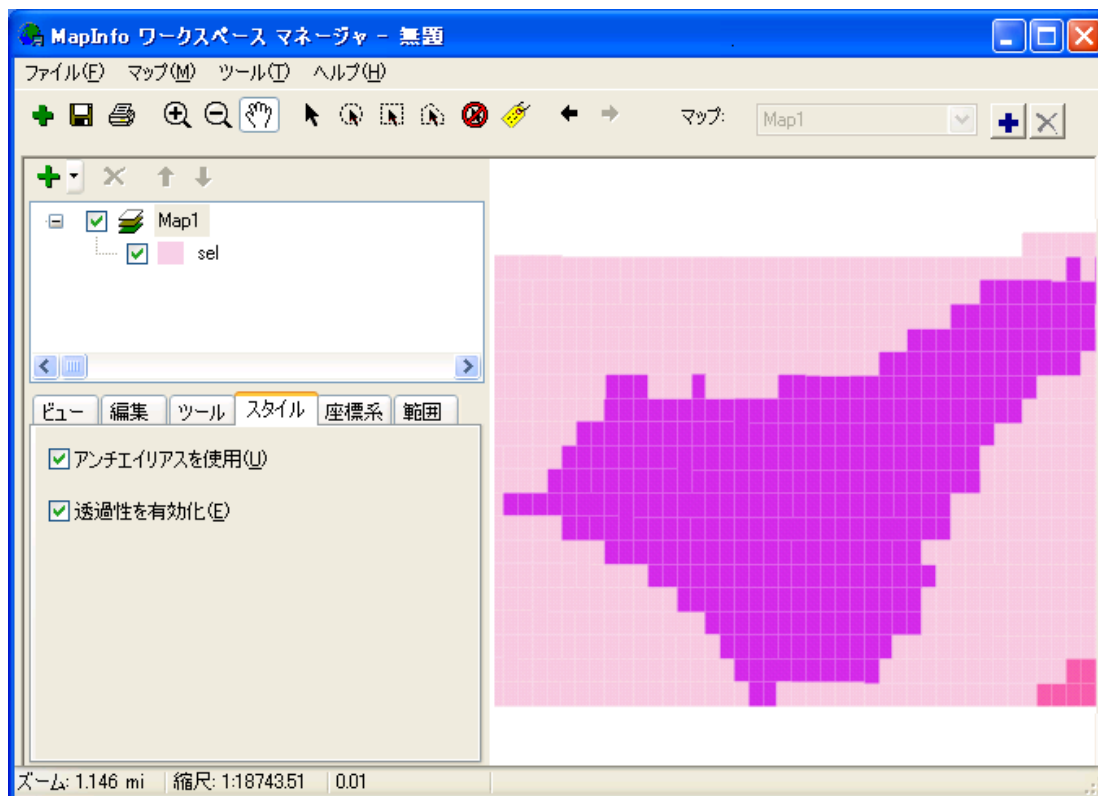
色選択ダイアログは透過性をサポートしていません。このダイアログは主題図がレンジ主題図の屈折の色やドット密度主題図のドットの色を選ぶのに使用します。色選択ダイアログは、ほとんどのスタイル ダイアログで使われる色選択コントロールを使用していません。

リモート デスクトップの問題

リモート デスクトップを使用して MapXtreme 2005 を実行すると、拡張レンダリングモードの画像の品質が劣化する場合があります。マップを移動するとき、マップの白い部分が薄い灰色で描画されることがあります。

アンチエイリアシングによる白い境界

アンチエイリアシングをオンにしていると、まっすぐな境界線を含むレイヤが白い線で描画されます。同じ境界線を使った一連の長方形のフィーチャを含むテーブルがあり、かつアンチエイリアスが有効になっていると、以下の画像のように、各フィーチャの周りに明るい境界線が表示されます。



このような場合は、アンチエイリアシングを無効にするか、フィーチャと同じ色の境界線を選択してください。

経緯度線

ワークスペースに最初に挿入する項目が経緯度線だと何も表示されず、その後のレイヤも表示されません。マップとグリッド線を表示するには、マップに相応するルートノードを右クリックして、[マップ全体の表示]を選択する必要があります。

LayerControl

編集ハンドル

LayerHelper クラスを使用してレイヤを編集可能にしていると、編集ハンドルが表示されない、または完全に非表示になります。

レイヤ内のフィーチャを選択した後、デスクトップの LayerControl を使ってレイヤを編集可能に設定した場合にも、編集ハンドルは完全に表示されなくなります。この問題は、マップを最初に再描画したときに解決します。フィーチャを選択して選択解除すると、編集ハンドルは正しく動作するようになります。

Select ツール

[ノード編集可能] がオンになっていると、選択ツールは LayerControl で正しく動作しません。

ラベル

選択したラベルと Legacy Text に表示される回転ハンドルは動作しません。また、アンカーポイント位置を変更できません。

ラベルの表示範囲には、MaxZoom が含まれないことがあります。表示ズーム レベルは座標系ごとに異なります。四捨五入で計算されるためと考えられます。

LegendControl

Web バージョンの LegendControl は、ASP テンプレートに配置すると正しく機能しません。Web フォームに MapControl と LegendControl だけを配置した場合、LegendControl ベースのビットマップは表示されません (つまり、赤いバツ印が表示されます)。Web フォームに何らかのツールを置いてから LegendControl を配置すると、LegendControl は正しく機能します。

凡例

BarTheme (棒グラフ主題図)

マップズーム レベルが変更されると、BarTheme 凡例は更新されません。縮尺の代わりに、拡大または縮小して描画されないことを示すメッセージが表示されます。

凡例行の表示

LegendFrame.Rows.Visible プロパティを "false" に設定したときに、意図したとおりに凡例行がオフになりません。

凡例の重複

主題図を含むワークスペースを再度開き、それを保存すると、ワークスペースに2つの凡例が作成されます。

追加されたカスタム凡例

マップと、追加されたカスタム凡例をワークスペースに保存するとエラーが発生します。

ライセンス

MapXtreme 2005 のライセンス検証機能は、アプリケーションが Web サービスとして配布されていると、それがデスクトップアプリケーションとして動作しているのか、それとも Web アプリケーションかを判断できません。Web アプリケーションの場合は、Web ランタイム ライセンスだけでなくデスクトップ ランタイム ライセンスも使用してください。

マッピング

EMF へのエクスポート

EMF にエクスポートし、その EMF ファイルを Microsoft Word で表示すると、マップがエクスポートしたよりも広い範囲で表示されます。

移動

縮尺範囲を使って表示されるマップを移動すると、白い斑点がマップ全体に表示されます。

マップの移動とズームを行うと中心点がおかしくなる

.NET 2.0 framework で StateServer と SqlServer を使用すると、ASP.NET のセッション状態管理に問題が生じます。マップでズームや移動の操作を実行すると、操作後のマップ イメージの中心点が間違った位置にオフセットされます。この問題は Visual Studio 2005 で 2.0 Framework を使用する場合にだけ発生します。

高解像度へのエクスポート

ラベル付きのマップを高解像度にエクスポートすると、ラベルのサイズが大きくなります。

スムージングされた折れ線のラベル処理

(MapInfo Professional テーブルの) スムーズ ビットがオンになっている折れ線をラベル処理すると、MapXtreme がクラッシュします。

多数のウィンドウのオープン

多数のマップ ウィンドウ (40 以上) を開くと、マップが正しく描画されなくなります。

大きなテーブルに関するパフォーマンスの問題

AddColumns

テーブルにフィールドを追加するために、200,000 を超える数のレコードを処理すると、MapXtreme 2005 のパフォーマンスが非常に悪くなる場合があります。NULL を渡すのではなく、Columns コレクションを自分で作成することをお勧めします。ジオメトリ フィールドは、必要な場合にだけ追加してください。必要がないのに、一時フィールドにインデックスを作成するのは避けてください。23 ページの「AddColumns と BindType」も参照してください。

レコードの数が多いと、MICommand を使って TableInfoServer テーブルにレコードを挿入する処理が長時間終わりません。

印刷

修飾の配置

印刷中に修飾が正しく配置されません。

半透明ラスタ

半透明ラスタの印刷には制限があります。半透明ラスタを印刷するには、EnableTranslucency を有効にする必要があります。ただしこれは、画面への表示やエクスポートには必要ありません。

印刷プレビューの処理されない例外

HP LaserJet プリンタと 2.0 Framework を使用したワークスペース マネージャで印刷プレビューを実行すると、処理されない例外がスローされます。

注意: この印刷プレビューの例外には [Continue] と [Quit] のボタンがあります。[Quit] ボタンをクリックすると、ワークスペース マネージャが閉じます。[Continue] ボタンをクリックすると、ワークスペース マネージャが開きます。しかし、ワークスペース マネージャを再起動するまで、このプリンタで正しく印刷することはできません。

FeatureStyleModifier

FeatureStyleModifier を適用した後でマップを印刷またはエクスポートすると、そのイメージには適用した修正が何も表示されません。これは印刷またはエクスポートのメソッドが新しいマップを作成するとき、修正メソッドが Null の値のパラメータを受け取るため、フィーチャを修正するコードが実行されないからだと思われます。

ラスタ イメージ

ESRI Grid ファイルと ERDAS IMAGINE ファイル

ワークスペース マネージャで ESRI Grid や ERDAS IMAGINE (.IMG) ラスタ ファイルを開くことができません。

並べて表示するイメージのゆがみ

マップをシームレスに並べて表示したイメージを生成する場合、ラスタ イメージが追加されていると、マップの投影法がラスタの投影法と一致している場合でも、イメージに多少のゆがみが出ます。ラスタ イメージを追加することによって、使用すべき現在の Coordsys が常に調べられるようになります。また、標準緯線がセットされる場所も変わるため、表示が少しゆがみます。これを回避するには、単純に2つ目のイメージを再生成してください。

サンプル アプリケーション

Netscape と Firefox

Visual Studio 2005 用に作成されたサンプル Web アプリケーションの中に、Netscape または Firefox のブラウザで表示すると正しくレンダリングされないものがあります。また、移動ツールも期待どおりに動作しません。これが問題になるのは、DataAccess、LegendControl、CustomTools、HelloWorld、および Thematics の Web サンプルです。これらのサンプルは、Internet Explorer で表示すれば正しくレンダリングおよび実行されます。

ThematicsWeb

主題図のサンプル Web アプリケーションを Netscape や FireFox で実行する場合、アプリケーションを正しくレンダリングするためには、また移動ツールを正しく機能させるためには、webform1.aspx ファイルに対して以下の変更を行う必要があります。

- <LayerControl> 要素の親要素である <td> 要素で、style を次のように変更して display:block を追加してください。
`<td style="display:block;position:relative">`
- LayerControl の style で、position の指定を absolute から relative に (つまり position:relative に) 変更してください。

ドイツ語/フランス語 ロケールでの Tools サンプル

ドイツ語/フランス語 ロケールの Windows XP で Visual Studio 2003 を使用する場合、Tools サンプル Web アプリケーションが正しく表示されません。実行時には、サンプルが正しく描画されます。

World.MWS

HelloWorldWeb サンプル アプリケーションの、world.mws マップ内の海洋のレイヤが壊れています (海洋にドットが多数表示されます)。これは、マップに修飾を添付している場合に起こります。

サンプル コード

『開発者リファレンス』に記載されている `MapInfo.Engine.Angles` クラスのコード部分で、度からラジアンへの変換のコードに誤りがあります。以下に太字で示す行が正しい構文です。

```
Public Shared Sub MapInfo_Engine_Angles ()
    Dim angleR As Double = Math.PI / 2.0
    Dim angleD As Double = Angles.RadiansToDegrees(angleR)

    If (89.0 < angleD < 91.0) Then
        ' 90 degrees = pi/2 radians
    End If

    Dim convertedR As Double = Angles.DegreesToRadians(90.0)

    'convertedR is pi/2
End Sub
```

シリアライゼーション

参照テーブルが閉じていると、ASCII `PointRef` テーブルをデシリアライズできません。pointRef テーブルをデシリアライズした後で、参照テーブルを閉じる必要があります。

レンジ主題図の使用時は、主題図をデシリアライズしないと主題図がクリアされません。したがって、シリアライズした主題図とデシリアライズした主題図では主題図プロパティの値が異なります。

スタイル

テキストスタイルの黒い蛍光色が正しく表示されません。これは、`TextStyleDlg` と `StyleSampleBitmapButton` オブジェクト ([スタイル] タブのボタン) で確認できます。回避方法としては、蛍光色として黒の代わりに非常に濃い灰色を選択します。

サイズ可変シンボル主題図のシンボルスタイルが、`LayerControl` に正しく反映されません。サイズ可変シンボルは、マップには正しく表示されますが、`LayerControl` には別のシンボルとして表示されます。

CompositeStyles の破棄

`CompositeStyles` は使用したリソースを開放することができません。このため、ある特定の状況でメモリリークが発生します。次のサンプルコードでは、メモリリークを回避するために `CompositeStyle` を `null` に設定しています。

```
private MapInfo.Styles.AreaStyle _style = new MapInfo.Styles.AreaStyle();
for (int i = 0; i < 1000000; i++)
{
    MapInfo.Styles.CompositeStyle cs = new MapInfo.Styles.CompositeStyle(_style);
}
cs.AreaStyle=null;
```

Tables

WriteTabFile()

`TableInfoView.WriteTabFile()` は、`CharSet` プロパティを書き出しません。その結果、デフォルト値 (`Latin1`) が使用されます。

エイリアス

Search から返される FeatureCollection のエイリアスを変更することができません。例外の記述やオンライン ドキュメントに、これに関する情報がありません。

SpatialSchemaXY

SpatialSchema オブジェクトの使用時に、Microsoft Access データベースに対する MapXtreme Catalog の更新処理を実行すると、エラーが発生します。

Vertical Mapper GRD ファイル

MapXtreme 2005 は Vertical Mapper GRD ファイルの使用時に、MapXtreme 2005 の外部でさらに操作されるのを防ぐためにファイルをロックします。たとえば、VM SDK のメソッドである vmWriteGRDRow で編集したり、ユーザのシステムから Windows Explorer を使って削除したりすることはできません。

ASCII およびその他のファイルをベースとしたテーブルのフォーマット

MapXtreme ではファイルの拡張子が TXT 以外の ASCII ファイルを開くことができません。拡張子が .TXT ではない場合、TableInfoAscii の DataPath プロパティはファイルが置かれている場所を必ずしも正確に判断することができません。

関連する .TAB ファイルがベース ファイルとは違うディレクトリに置かれていると、サポート対象のファイルをベースとしたフォーマットであっても MapXtreme はファイルを開けません。

ツール

情報チップ

選択ツールをマップのフィーチャの上に置いても、情報チップが表示されません。フィーチャを選択すると、情報チップが表示されます。

長方形選択ツール

マップに Oracle Spatial レイヤが含まれる場合、MapXtreme 2005 の RectangleSelect ツールで表示に通常よりも時間がかかる場合があります。これを避けるためには、ワークスペース マネージャでレイヤの [情報チップを表示] チェックボックスをオフにします。

Firefox と Netscape

Visual Studio 2003 または Visual Studio 2005 で ASP.NET の Web アプリケーション テンプレートから Web アプリケーションを新規作成した場合、Firefox や Netscape でツールが正しく機能しません。

Visual Studio 2005

ASP.NET 2.0

Visual Studio 2005 で Web アプリケーションを作成する場合、ASP.NET 2.0 を使用するように仮想ディレクトリを手動で切り替える必要があります。これをしないとページが読み込まれません。

ASP.NET 2.0 を実行するように仮想ディレクトリを切り替えるには、IIS マネージャで仮想ディレクトリに移動して右クリックし、[プロパティ] ダイアログを表示します。[ASP.NET バージョン] ドロップダウン リストで 2.0 のタグを選択します。

MapForm のデザイン

MapControl にマップを読み込んだ後、アプリケーションを再作成せずにマップを閉じると、Visual Studio 2005 の MapForm デザイナでエラーが発生します。この問題は、どの種類のテンプレート (MapXtreme や Windows) を使用していても、あるいはどのプログラム言語 (C# や VB) を使用していても発生します。これを回避するため、マップを読み込んだ後に必ずアプリケーションを再作成してください。

Web セットアップ プロジェクト

Visual Studio 2005 で Web アプリケーションのデプロイメントを自分で作成する場合は、MSM を手動で追加する必要があります。Web セットアップ プロジェクトは Web.config 内で参照されるアセンブリを検出しません。このため、アセンブリ (およびその MSM) が参照先として検出されません。

MSM を手動で追加するには、Web セットアップ プロジェクトを右クリックして [追加]、[マージ モジュール] をクリックします。MapInfoCoreEngine_6.x、MapInfoMXTConfig_6.x、MapInfoWeb_6.x、および必要に応じてその他の MSM を選択します。

複数のバージョンが共存するシステムでのセットアップ プロジェクト

同じマシンに複数のバージョン (v6.6 と v6.7 など) が共存している場合、Microsoft Visual Studio 2005 で MapXtreme 2005 v6.7 プロジェクト用のセットアップ プロジェクトを作成すると、古い方のバージョンの MapinfoCoreEngine[intl] と MapinfomxtConfig の MSM も同時に参照先として検出されます。

効率的なセットアップ プロジェクトを作成するために、古いバージョンの MSM を除外する必要があります。古い方の MSM を右クリックして [除外] を選択してください。

注意: この問題は Visual Studio 2003 では起きません。Visual Studio 2005 でのみ発生します。

Web アプリケーション

英語以外の OS での Web テンプレートの Web.config

英語以外の一部のオペレーティング システムで、MapXtreme 2005 の ASP.NET Web テンプレートで作成された web.config ファイルに、world.mws ファイルへの正しいパスが記述されません。正しいパスは C:\Programmer\MapInfo\MapXtreme\6.7\Samples\Data\World.mws です。

Pure Virtual Function Error

Web アプリケーションを閉じるときに、場合によって Pure Virtual Function エラーが表示されることがあります。たとえば、IIS を再起動するか Web ガーデンの設定を変更しているときにこのエラーが起きます。または、Visual Studio でアプリケーションに変更を加えてから再ビルドした後も発生する可能性があります。このエラーが起きた場合、[OK] をクリックすれば処理が問題なく続行されます。このエラーの原因は、ワーカー プロセスが存在するときに、MapXtreme セッションをタイミングの問題で正しくアンロードできないことにあります。

ブラウザの [戻る] ボタンと v6.5 よりも前の Web コントロール

Web アプリケーションでマップの 1 つの領域を拡大した後で [戻る] ボタンをクリックし、同じマップの別の領域を拡大すると、前の領域が拡大されて表示されます。ブラウザの [進む] と [戻る] のボタンが無効になります。この問題は 6.5 よりも前の Web コントロールでのみ起こります。

v6.5 よりも前の Web InfoTool

v6.5 よりも前の Web InfoTool で正しくフィーチャを選択できません。また、この処理に一貫性也没有ありません。このツールでは、特定のピクセル許容値の範囲内にある選択ポイントを交差するオブジェクトが選択されるはずなのですが、現時点では、クリックしたポイントを囲む MBR (最小外接四角形) を含むオブジェクトが選択されます。これらの MBR の許容値は大きい場合も小さい場合もあります。この動作は、JavaScript 対応の Web MapControl では起こりません。

Web コントロール

設計時に必要な MapAlias

MapControl を WebForm に追加するたびに、MapAlias 値を設定する必要があります。MapAlias を設計時に設定しないと、アプリケーションは正常に動作しないで、クラッシュします。また、MapAlias 値を実行時に変更した場合でもアプリケーションは元の MapAlias を探すので、エラーになります。

MapXtreme 2005 の Web テンプレートとサンプルには、“Map1” と呼ばれるデフォルトの MapAlias が用意されています。

MapAlias とセッション管理

実行時に MapControl の MapAlias を変更すると、セッションの値が正しく復元されません。MapXtreme 2005 のプロジェクトテンプレートやサンプルアプリケーションの、デフォルトのセッション管理設定では、変更内容がセッション全体に格納されるのではなく、HTTP セッションにのみ格納されます。上記の既知の問題で説明したように、MapAlias は変更を正しいセッションに結び付けるうえで非常に重要です。MapAlias が実行時に変更された場合、セッションは前の MapAlias の状態を返します。

PointSelectionTool

Web PointSelectionTool のカーソルのホットスポットが、予想される場所 (指の先) にありません。このため、オブジェクトの真上でクリックすることが簡単にできません。

ピクセル許容レベル

PointSelection ツールの PixelTolerance プロパティを 0 に設定すると、実行時にクラッシュが起きます。指定した引数が有効な値の範囲外であることを示す例外が表示されます。PixelTolerance には正の整数を設定します。

LayerControl

レイヤを一時テーブルからマップに追加すると、LayerControl がクラッシュします。この問題はアプリケーションで web.config ファイルの <appsettings> が次のように設定されている場合に起こります。

```
<add key="MapInfo.Engine.Session.Pooled" value="false" />
<add key="MapInfo.Engine.Session.State" value="HttpSessionState" />
<sessionState mode="StateServer" stateConnectionString="tcpip=xxx.x.x.x:xxxx"
sqlConnectionString="data source=xxx.x.x.x;userid=sa;password=" cookieless="false"
timeout="20" />
```

MapXtreme 2005 で、このように設定することは推奨されません。プロジェクトテンプレートやサンプルではプール、手動 Session.State、および InProc sessionState モードが使用されます。この方法であれば、各 HTTP セッションに何を保存するかを、より細かくコントロールできます。Web アプリケーションと状態管理のベスト プラクティスの詳細については、『MapXtreme 2005 開発者ガイド』の第 5 章と第 6 章を参照してください。

WMS/WFS

WMS テーブル バージョン 750 に [マップ] メニューの [レイヤ全体の表示] を選択すると、ワークスペース マネージャでエラーが起きます。

ワークスペース マネージャ

値を変更してワークスペースを保存したときに、変更が保存されません。たとえば、[表示] タブでいずれかのズームの値を変更した後すぐに [保存] をクリックした場合、そのままの状態のワークスペース マネージャでワークスペースをもう一度開くと、変更が保存されていません。ただし、変更した値を含むコントロールの外をクリックしてコントロールを非表示にしてから (つまり、フォーカスを他に移してから) [保存] をクリックすると、変更した値が保存されます。

その他の問題

MessageBox

メッセージボックスをウィンドウ (フォーム) コンストラクタに配置すると、長方形の拡大縮小のツールが使用できなくなります。この状況を回避するには、MessageBox 呼び出しをフォームの Load イベント ハンドラ メソッドに含めます。

ドキュメントの補足

以下に、MapXtreme のドキュメント一式 (開発者ガイドと開発者リファレンス) に明確に記載されていない、あるいは記述がないトピックを示します。

MapXtreme Web アプリケーション テンプレート

MapXtreme Visual Studio 2005 のテンプレートは、webform1.aspx の HTML を表示するソース ビューに開きます。この動作は Visual Studio の [ツール] > [オプション] メニューにあるユーザ設定によるものです。ここではユーザがソース ビューとデザイン ビューのいずれかを選択できます。MapXtreme テンプレートは組み込みまれた設定情報よりも、このユーザ設定を優先してデザイン ビューを表示します。

フィールド名の特殊文字

MapXtreme では以下の条件を満たしている場合を除き、フィールド名に特殊文字を使うことができません。

以下の記号は、識別子の末尾にあり、かつフィールド名の別の位置にも同じ記号が存在する場合に限り、フィールド名に使用できます。

- \$
- @
- %
- !
- &

MapXtreme ではフィールド名が有効であることを確認するために、無効な文字列のテーブルと付き合わせて名前をチェックするようになりました。このテーブルにない文字であれば、フィールド名に使用できます。つまり、フィールド名に英字 (a-z、A-Z) や数字 (0-9) を含めることができます。

TableInfoServer.Temporary プロパティ

MapXtreme 開発者リファレンスに、MapInfo.Data.TableInfoServer.Temporary を True にセットできるという間違った記述があります。このタイプのテーブルでは、一時テーブルの作成はサポートされていません。Temporary が True にセットされると、TableInfoServer が例外をスローするようになりました。